神奈川縣教育時報

毎月拾日・廿五日發行

購讀料　一部　參拾六錢
廣告料　半一頁　四分　貳拾六錢
　　一頁　壹圓　貳拾五圓
發行所　神奈川縣教育會
編輯兼發行人　神奈川縣教育會代表者　吉田清太郎
印刷人　横濱市中區日横濱市住吉町五ノ五八　鈴木清五
印刷所　横濱市住吉町五ノ五八　横濱活版合資會社

史談

元弘の忠臣
大館宗氏の鎌倉攻入と其の遺蹟について（其の二）

横濱高等女學校副校長　北村包直稿

宗氏は、十八日黄昏遅く、腰越の陣營に引き上げ、味方の戰死者を檢討し、戰功者を調査し、負傷者を手充し、一と夜策戰に心を碎き、翌十九日拂曉、部署を分けて、（無論前日の會稽を雪ぐべく）進軍した。成功すればよし。萬一失敗せば、重ねての含垢包羞は堪えられぬ。斷じて生還を思はぬ。勤王新田家の心血を灑いで、同族の敵愾心を鼓舞し振作する覺悟である。靈山一帶のの地理は、前日で粗ぼ明瞭と爲つた。敵軍の數と力も、概ね推測が出來た。從軍の二子幸氏氏明にも、萬一の場合を豫想して將來を遺言した。一旦決心のついた宗氏は、自ら馬を陣頭に進め、靈山を越え、稻瀬川に沿ひ、貞直の麾下を目がけて猛進した。鞍上人なく、鞍下馬なく、振ふ刀に仇は無く、敵兵は草と偃して、流石の貞直の軍も知らず知らず左右に辟びいて、自ら路を辟いた。玆に貞直の家臣に、本間山城左衛門と、其の若黨中間百餘人が、一團と爲つて、横合から猛烈に宗氏に迫つた。宗氏は人も馬も、幾筋の流矢を蒙つて著しく疲れた折とて遂に山城が鋒先に懸つて落命した。山城は、宗氏の首級を劍の先に貫いて、疾風の如く馬首を廻らして、貞直が本陣へ遁れた山城が宗氏のそれ以上に勇敢であつたことや、貞直が陣へ急いで歸つた事情は、別稿に誌しませう。

宗氏の家子郎黨は、主人の仇として奮迅する一騎當千の働きに敵軍も、亦之を遮つて、或は遠箭に、或は群る槍先に、包み攻めたあはれ其の中の十勇士は首を並べて、悲壯の最期を遂げた。此の十人の氏名は、惜しいかな記錄にも、口碑にも傳はらぬ。大館軍は、主將の討死が、忽ち全軍に知れ渡つて、一時は亢奮激越して、攻擊力を强めたが、同時に亦、悲哀悲傷の雲に裏まれて、軍氣自う沮喪した。敵軍は反比例に、勢威を逞うし、健鬪を續け、遂に大館軍は、總退却の止むなき狀況に陷り、幸氏氏明兄弟も、涙を呑んで、屈强な郎從に命じ、逸早く宗氏の遺骸遺物を收容して、殿戰しつつ退却して、其の遺骸を主從同穴に極樂寺川の左岸に埋葬した。中央軍の義貞公は、宗氏が討死して、靈山方面の寄手が崩潰したことを聞いて、惶惑したが、忽ち或る決心を固めて、中央軍をば、部將に托して、義助と共に逞兵二萬を提げて、片瀬から腰越へ出で、迅速に宗氏の殘軍を結束して、二十一日の夜半、靈山崎に到着して、宗氏主從の新しい奥津城に詣でて、其の英魂を弔ひ岬角の斷崖上に馬を立て、更けゆく月影に、陸海敵軍の柵砦兵船の嚴重な防備を下瞰し、忽ち馬から下りて、兜を脱ぎ、腰に佩いた黄金作の太刀を取つて、海中に投じ冥目合掌して、傳へ承る、吾が神國開闢の御神天照皇大神は、本地を大日の尊像に藏し、垂跡を蒼海の龍神に現じ給へりと。今や、其の御直裔なる萬乘の御君は、逆臣のために、西海の浪に漂はせ給ふ。臣義貞斧鉞を執つて、敵陣に臨む、其の志誓つて、王化を佐け、蒼生を安からしめんとなり。仰ぎ願はくは、内海外海の龍神、臣が微衷を鑑み、潮を萬里の外に退け、道を三軍の陣に開かせ給へ。」と祈願を籠めた。不思議や夜明け方に、海潮は數町俄に退いた。義貞公は、悅び勇んで、諸軍を下知して、平砂を踏んで、眞一文字に、鎌倉へと亂入した。

義貞公は、豫め干潮の時を知り、神異を藉つて、軍氣を鼓舞したので、楠公の天王寺未來記、豊公の嚴島賽錢、織田此の熱田鳴鐘と同樣か。

かくて、三方の新田軍、齊しく進んで、二十二日の夕刻には、幕府の顚覆、北條氏の滅亡と爲つたのである。

之を要するに、宗氏の一死は新田軍を頓挫せしめたが、此の頓挫が、又直に一變して、成功を促進したのである。

宗氏の子幸氏氏明兄弟は、此の後、亡父の志を紹いで、義貞公及北畠顯家に從ひ、近江に播磨に京師に、屢次の戰功を立てた氏明は、後伊豫守護と爲つて、勤王に盡力し、更に義助を迎へて近國經略に勉めたが、南風競はず、時運非にして、遂に世田城に據り、附近强大の賊軍に抗し、最後に、兵十七人を率ゐ城を出て、敵勢を駈け破り、城に歸つて屠腹した。其の子氏清は、京都に於て擧問し、吉野朝廷に奉仕し、後母家伊勢の北畠顯能に身を寄せて、關岡城に居つて、そを姓とした。又、氏明の子氏宗は、近江野洲郡北村に歸農した。彼の氣節博學もて名高く、靈元上皇の洞中に講書した名儒北村可昌も國學和歌に秀で、幕府の歌學所に召され、俳諧に長じ、芭蕉翁の師である北村季吟も、其の後胤である。

猶、宗氏の子孫末葉の詳編は別に研究の結果を、發表したいと思ひます。

宗氏主從の遺骸を埋葬した墳上へ、後代の郷人は十一面觀音像（此は、特に十一人に因んだ譯では無からう。）を祀つた。墓上に祠堂を立てる例は、相模守郡大根村眞田の眞田義忠の眞田明神社や鎌倉圓覺寺の北條時宗の廟などが、それである。或る古書には、此を「新田氏勇士此の邊にて、討死せし者を埋葬し云云。」とある。此の十一面觀音堂は、德川中世まで存在した由に聞くが、今は全く無い。現在の石碑は、文久二年（今から七一年前）に、越前福井藩士で宗氏の後胤である大館俊氏同氏亮が立てたもので、高約三尺、縱幅八寸横幅五寸位の角石で、正面に「大館久次郎宗氏主從十一人墓」と題し、其の右に「元弘三癸酉五月十九日。」左に「於此地戰死。」と刻み、左横に「舊塚上標松前建之」と鑑つてある。明治十二三年頃までは、此の「標松」も、小堆い塚上に枯れ込かつたまゝに存在した。然かして其の松の根元と、此の碑の傍に小型石佛像（觀音か地藏か）の在つたのを、余は往年確かに見たことを、今に記憶して居る。

「十一人塚碑」は、昭和二年三月、鎌倉同人會に由つて建立せられ、田邊松坡先生の撰文である。塋域も擴充せられ、樹木も栽えられた。宗氏の遺物として、極樂寺と鞍と鐙とが存藏せられ、古色蒼然掬すべきものであるが、如何なる事情で、此の寺に在るかは未詳を遺憾とする惟ふに、宗氏の遺骸瘞埋の折に宗氏の子息が家臣か友僚が、特に極樂寺へ（たとひ北條氏に由緒深い寺院にせよ）住僧に、回向讀經を請ひ、此の記念物をも寄進したものか。此の觀音堂も極樂寺の僧徒に依つて、歳時の供養が行はれたと傳へられる。

余は明治二十四年以來毎年二三回づゝ宗氏の墳墓に詣賽するを例として來ました。本縣社寺課の催されました本年首春の「史蹟巡り」には、墓前に於て一場の講演をしました。其の折の草稿に加筆して本篇を綴り、之を五月十九日六百年の忌日に、香華と共に墓前に捧げました。

舊詠一首を跋に代へます。

波浪韡韡拍岸怒。
鵲鵶職寒集枯樹。
靈山岬畔秋既闌。
荒凉一杯忠臣墓。
懷昔元弘癸酉年。
敵愾三軍氣衝天。
右翼司令館宗氏。
欲摧金湯要害堅。
奮迅無効退含恥。
再進健鬪遂戰死。
麾下十士亦曝屍。
壯烈眞使懦天起。
轅門禮葬慰英魂。
主從同窀眠九原。
豈啻古刹藏遺物。
猶有文献炳焉存。
噫吾迂愚辱後胤。
半生志望歸緇磷。
焚香稽顙淚潸潸。
蕭颯悲風拂霜鬢。

時事所感

高座郡藤澤尋常高等小學校長　仙田四五郎

私は德育の問題について、いつも「三つ子の魂百まで」といふ諺を思ひ出すのである。

小學校令に示されて居る通り道德教育及國民教育の基礎として培つた教へ子の幼な魂が終生明光を失はぬ樣に、これだけは特に念を入れて養育しなければならぬといふのである。否寧ろこれが國民教育の根本であるから、全力をこの點に傾注することを忘れてはならぬと信じて居る。彼の智育偏重など〻いふことは、明治大正の教育史に殘されたことであるべきに、今でも一部には此の弊を脱することの出來ないものあるを怖れて居るのである。かくして初等教育に於て國民道德の基礎が理想的に完成されたならば、人生の行路にかなりの障害誘惑などがあつても、日本國民として、まさか國體に背き國情に悖るが如き過激なる思想を抱く輩などは露ほども出ないわけであると思ふ。私は固くさう信じて居る。然るに近時の世相を觀るに所謂思想國難で實に寒心に堪えないものが數々ある。これには豫期しない色々の原因があることは申すまでもないが、時勢の推移に對して適應した基礎教育が完全に出來て居なかつた所なきやを憂慮するのである。こゝが現下非常の時局に際して我々の深甚なる考慮を要する一つであると思ふ。勿論我々は常に堅實なる國民精神涵養に深く思ひを致して居るわけであるが、此の際更に大いに意氣を振作して、靜に内に省みよく時勢の推移を達觀して改善すべきは改善し、只管德育の向上を期さなければならぬと思ふ。

それには私は此際先づ第一に我々教育者自身の自力更生即ち精神的更生運動が肝要であると信じて居る。時弊の由て來れる所國民精神の弛緩が最大原因であるとされて居る。七年九月の縣告諭には「大いに國民の意氣を振作して實剛健に趨き經濟生活を改善して國力を不拔に培ざるべからず。」と仰せられて居る。私はこの非常時に際して國民教育の任に當るものは總動員で國民更生運動の先頭に立ち、先づ精神的更生の旗幟を高く揭げることの急務なることを高調して居る。私の同僚四十七名が相結束して修養團に入つたのは此の精神からである。修養團は將來益々全國各階級の中堅人士を糾合して善化網を完成すると意氣込んで居る。私は教育家が所謂善化網たるは申すに及ばず、又その教へ子の總てが幾歳になつても、何處に生活してもその善化網の網の一目であることを期して居る。

そこで我々の修養のことについてゞあるが、私は同一の先生が入學當初から最終學年まで同一兒童を擔任して教養することを理想とするから、先生たるものは常識を養ひ學識を廣めることは言ふまでもないが、特に人格を磨いて全學年を一貫して學童の訓育陶冶に當る覺悟と自信とを持つに充分な修養を希ふのである。それで初めて眞に教師と兒童との溫い人格的接觸が可能であり、これが德育の第一義だと思ふ。眞の愛と熱とはこゝから湧き出るのである。工夫された種々の施設もこゝから生れたのでなければ役立たない。要するに私はこの非常時に當つては先づ第一に精神的自力更生に醒め、層一層教育者としての修養に專念し次代に適應した國民教育の上に德育の完璧を期さなければならぬと思ふ。非常時に處する我々の第一要諦は方にこゝにあると信じて居るのである。

次に私の學校の施設の實際であるが、別段新機軸とてはない。只前述の考で簡潔を旨として居る。施設要覽の一項に「祝祭日及國民的記念日に於ける國民精神の體得、鄕土的記念日に於ける鄕土愛の喚起、偉人祭に於ける人格的感化は國民道德上非常に價値あるものであるが故に其の精神なり人格なりに融合同化せしめる態度を養ふために特別の生活をなさしむ。」として別に述べるほどのものではないが只其の實施に當つて單に形式にはしらず其の度毎に全員異體同心で、よく工夫をこらして各學年兒童發育の程度に應じ夫々兒童心理の琴線にぴつたり觸れる樣にと苦慮して居るのである。

終りに德育の實績の向上について卒業生指導を忘れてはならぬといふことを附記して見たいと思ふ。それは家庭が生みの親であると同樣に小學校は兒童の精神的生みの親であるから、かくあるが寧ろ自然の情愛でなければならぬと思ふ。例へば中等以上の學校に送つた者でも適當な方法のもとに引續いて面倒を見ることが大事である。又實務について異鄕に在る者、兵隊に出て軍務に勵む者、總てこれ等に對しては常に音信を絶つてはならぬ。時には現に在校の弟妹から便りさせることもよい。一枚のはがき、それが彼等にとつて無上の慰安ともなり、唯一の激勵ともなる。なつかしき故鄕よりの音信、誰か愛鄕の情に躍らざる者あらんやであります。親を思ひ母校を慕ひ、故鄕を懷む純眞な魂あればこそ、國民として恥かしくない明光を放つのであらう。彼の鄕土教育などゝいふことはかういふ所に眞の意味を見出すことが出來ると思ふ。

蕪雜なことを申述べて貴い紙面を汚したことを謝します。

河邊良平先生の靈を何處に祭る

山崎　博

一

河邊良平先生の靈を何處に祭つたらばよいか。この言葉を縣民諸君にお聽きしたいのである。決して教育者と限らない、先生の弟子達と限らない。先生の友人と限らない。

弟子達、そして教育者、友人は勿論のこと、もつと縣下に生活しつゝある縣民諸君にお聽きしたいのである。

二

何のために聽くのか。この教育家、神奈川縣、我が縣の教育家の靈をとこしなへに、我が縣に眠つていたゞきたいと念願する心の切なるものがあるからである。

そしてこの際私達縣民は、我が縣の教育家達についてもらひたいから、この問ひをするのである。

鄉土民がその德を偲んで建碑したり、その德をとこしなへに傳へんとする會合など、それは懷かしきものもあるがたゞ微細鄉土に止むべきでない。その德化縣全般に亘つたる者の多くあるのである。

こゝに例をとることは如何かと思ふが、服部先生の如きは決して鎌倉師範で直接先生の指導を受けたる人々によつてのみ、とはにその露の祭らるべきではないと思ふ。

神奈川の一寺に止むべきではなくて、縣民諸君がその德に感謝し得るのところに求めたい。私の崇敬する教育家、故小山清亮先生の靈位なども故山都筑の中川にとどめずして、縣民が等しく、しかも時代の人に傳へ得る場所に靈をとゞめたいものである。

かく考へるとき、私の知るだけでも、私の先輩にかうした教育家が澤山居られる。その人とその德と思想とを縣民に遺すことの如何に行はれてゐるかを知らない。

勿論私の知らない位、私の足らなかつたことを申譯なく思ふが、又私に知らしめなかつた位、縣民が注意しなかつたことゝ思ふ。

三

河邊先生の靈は何處へ祭りますか。私達教育者は、殊に子弟の私達は考へますが、縣民全體の諸君が考へて欲しい私は切にお願ひする。

例にあげた、本縣出身の教育家はその鄉土に祭るとしても、中等教育に一身を献げられし人々の靈をどうするか。

たま〳〵河邊先生の悲しき今日に會ひこの事から私の所信を述べてゐるのであるが私の知らない限りに於て、他府縣から來て、本縣中等教育に一生を献げし人の多きを思ふ時、誠に切なるものがある。

中等教育にたゞさはりし人々、たゞさはりつつある人々私の指導を受けし人々、私の知る人々の中には、全く本縣教育に終始せられてゐる人が澤山ある。

その學校の子弟に、縣下の教育事業に、小學校教職者の指導に全く盡されてゐる。例をあげれば一番明瞭となることであるが、それは今あげべきことではない。

これ等の人々の德、思想が本縣民を導きつゝあることは勿論のこと、本縣民の將來を導くものであることはいふまでのこともない。

四

私は河邊先生のありし日の德、そして思想を、將來の縣民、狹くは教育家の心に生かしめるために先生の人と事業とを遺したいのである。

更に私は縣下の先輩の人、事業思想を永遠ならしめ、縣民の心に永遠ならしめたいのである。

河邊先生を偲ぶ

追悼座談會

素描同人主催

於新興倶樂部

出席者（順序不同）

御遺族　河邊花

同　　河邊不二雄

同　　西村好江

緣者

川崎市旭町尋常高等小學校長　井出泰文

同　校　訓　導　鈴木憲一

横濱市間門小學校訓導　香川重雄

神奈川縣高津町立實科高等女學校　新川正治

川崎市富士見小學校訓導　中山貞

神奈川縣女子師範學校訓導　遠藤要

横濱市立實科高等女學校　和田悌三

稲田第一小學校長　齋藤隆之助

川崎市玉川尋常小學校長　宮崎清

縣立工業學校教諭　大谷茂良

横濱市兒童教育研究所　平沼光

女子師範附屬小學校訓導　稲木時次郎

横濱市戸部小學校訓導　渡邊末雄

横濱市老松小學校訓導　清水進

川崎市田島尋常高等小學校長　山崎博

（井出）本夕は申上げるまでもなく、吾等の恩師、故河邊先生の生前を十分に偲びたい人々の集りでございますから、餘り堅苦しくお考へにならず、おくつろぎになつた態度でいろ〳〵と先生についての思出話をお進め願ひたいと思ひます。今眼前先生のお寫眞を拜して吾々子弟が在し日の恩師をお慕ひ申して、くつろいでお話することを、勿論先生に於てもお許下さることゝ信じて居ります。

本夕は又、未だにお取込みでお忙しい處を私共の式儘な申出をお聽とゞけ下さいまして、お出席を頂きました奥様や御子息様方に、一同に代りまして厚くお禮申上げます、有難うございます。

それでは座談に移る順序と致しまして、出席會員の御紹介を例に依つて香川君にお願ひ致します。

（香川）どうも、いつも、私が斯う云ふ會合の際は紹介役を承るので困つて居るのですが、―それでは御紹介申上げます。（會員各自の氏名、略歴の紹介省略）

（井出）私達今回川崎市の教育界視察員としまして、朝鮮滿洲方面の視察を命ぜられ、五月八日に出發致し、二十九日に歸つて參りました、今回の海外視察に就きましては、故河邊先生には一方ならぬ御配慮を頂いた譯であります、私共出發前の七日縣の方に御挨拶に上りましたその際の先生のお言葉が未だに私の耳にほんとに在々と殘つて居ります、今になつて何んとも申上げられない感じが致します。

『君達丈夫で視察して歸つて貰ひたいが、朝鮮や滿洲に行つて、小學校長だからと云ふので、學校方面の教育視察をやらうとしても、それは何んの益もないよ、朝鮮や滿洲の教育と云ふものは内地の教育を眞似てやつて居る、謂はば日本の教育の糟粕を嘗めて居るようなもんである、學校の視察と云ふことには餘り頭を置かないやうに、寧ろ、あちらの方面の人情、風俗、習慣、産業と云ふやうな方面でも見た方がより有意義である』

學校教育視察に重きを置かないでもいゝと云ふやうなことをおつしやられた、尚言葉をついで『今回、川崎市から四人の校長を海外視察に出すと云ふことは、これは特別だよ、他の郡から海外視察の許可を與へて貰ひたいと云ふ申出が隨分あるが、君達だけ特別に許可した理由は、川崎市は新興都市であり、工場都市であり、滿洲方面とは非常に密接な關係をもつて居るのであるから、君達その積りで丈夫で視察して歸つてくれ』

と云ふやうなことをおつしやいました、私共あの時の先生のお言葉を、ほんとに有難く感じました。

では、行つて參りますと御挨拶申上げて出掛けた譯であります然るに旅行中の二十四日「奉天」に於きまして先生突然の御逝去の電報を受取りまして、一同は顏を見合せただけで、呆然として暫らくはものも言へなかつたやうな狀態であります、從ひまして先生の告別式にも參列することが出來なかつたのであります、豫定の視察を終つて二十九日に無事歸りまして、縣の方に御挨拶に上りましても教務課の室で恩師のお姿を拜することは出來なかつたのであります、私共非常に物寂しさを感じたやうな次第であります、本日茲に河邊先生のお姿を拜しまして、涙を催して居る次第であります、さうして、出發の際の溫い恩師の思ひやりのお言葉を今こゝに再びあり〳〵と想ひ出し、無事に旅から歸つて來ましたことをお寫眞の前にお報告申上げます。

（中山）先生は私共在校中滿四年間御教導下さいました、恩師の數々の想ひ出に涙新たなるものがあります、私が學校を出まして一番初めに參りましたのは、正修小學校であります、さうして、先生はそこの校長をして居られたのでありました、赴任して參りました時に『君一年の受持だよ』と言はれました、當時まだ學生氣分の拔けない我儘な氣持が多分にありましたので、『先生一年ですか』と不滿の意を含めた言葉を申上げたことを覺へて居ります、すると先生は『我儘言ふぢやないよ』と唯一言のお諭でありましたが、私の耳にはそれが非常に强く響き、さうしてこの短い一言の中から先生のお心持に敎へ子を諭される恩愛の暖きものがあるを知つたのであります。先生の御逝去を新聞で知りました時も、私は先づ一番最切に、『我儘言ふぢやないよ』と言はれたお言葉が想ひ出されるのであります私共教育に携るものとして、實に至言であるといつも私の耳朶を離れない一言、このことを今日座談會があると云ふことを承りまして、私として、是非お話し申上げたいと思つて參つた譯であります。

それから先生に就て平素感銘して居たことは、公私の別を非常に深くお辨へになつて居られたと云ふことであります、私一度先生のお宅に伺つたことがありますが、寄宿舍の舍監としての先生と、家庭にお歸りになつた私人河邊としての風格、態度の違ひの大きいのに驚いたことがあります。

公人としての河邊先生、私人としての河邊先生、そこに非常に嚴格な區別があつたと云ふことであります。

（鈴木）新川君なぞは大分想ひ出が多いでせう一つどうぞ、

（新川）私が河邊先生に親しみを感じはじめたのは、二年級頃からです、當時先生は野球部長であり、私も野球をやつて居りましたので、先生の受持の化學の時間が一番つらかつた、他の者から野球をやるために學科成績が落ちると云ふ懸念をもたれはしないかと云ふ點に特に我々は氣をつけて居た譯であります、この心持が先生にも通じたのか、時折り練習が激しくて化學の時間に質問をされても、答へが出來ない時等は下を向いて默つて居るどうかしてうまく質問に答へられるやうな時、先生が下を向いて居られる時でも、ヒヨツと得意の顏を上げて先生の方を見る、さうすると指名して下さる、これは先生が意識されて居て特別の待遇であつたのかどうか分りませぬが、兎に角非常に嬉しく感じて居ました。

當時野球部の選手は、化學、數學は嫌やの方の學科で自分等は性質上特にまづい方でありましたが、斯うした先生の導きと、化學教授に就ての獨特の講義振りとて、知らず〳〵の中に興味を持ち、勉强するやうになりました、特に吾々の同級で齋藤英吉君と云ふのが居ましたが、これは化學は苦手の中の苦手であつたのですが、河邊先生に敎はるやうになりましてから化學と云ふと無中になつて勉强した、さうして九十九點までのしたと云ふやうなこともありました。

舍監としての先生に親しみを感じたのは、廊下を歩かれる時に、コツン〳〵と音がする、あの音がたまらなくなつかしがつたものです。さうして、その靴音を聽くと、一種の警鐘と云ふやうな氣持がして、猛然と勉强にとりかゝつたことも隨分あつたやうであります。それから野球のことですが、先生は野球が好きでありました、選手と一緒によく練習をなさいました、先生も暫らく野球をおやりにならなかつたので技術は昔のやうに思ふやうに行かないやうでありましたが投球して貫つて練習をしたことが度々ありました、投球して貫ふのは有難いのですが、デツトボールを度々連發されて痛い目に逢つたことも再度ならずありましたが、代つて先生がお打ちになるのですが、私が一生懸命になつていい球を投げるので私の球は練習用にはもつて來いの球だ、いゝ球だといつまでも〳〵打つて居られるので他の選手は先生は、いいかげんにしてくれゝばいいなあと、嘆聲を洩すことが度々でありました時には、故意に惡い球を投げて先生を退却させるやうな手段を講じたりしたこともありました今から考へれば實に相濟まぬことをしたやうで冷汗の出るやうな想ひ出もあります、然し斯うしたことが、先生に親しみを感じた最も大きなものであります、でも我々はどうも、河邊先生に就ては何んとなく侵し難い嚴父と云ふやうな感じがありました。ですから自分達の惡童振りを先生の目から逃れるため、有ゆる手段を講じたものです、今になつてほんとに慚愧に堪へないやうなこともあります。

先生は非常に寡默の方でありました、三年の時に引率されて日光旅行したことがありましたが車中でも餘りお話はなさらなかつたし又我々の方でも話かけなかつたのですが鎌倉時代の先生は寡默謹嚴で、侵し難い嚴父と言つたやうな印象が殘つて居るやうです。

（遠藤）私は學校では平凡に何もせずに過してしまひましたので殊に河邊先生に親しむ機會が餘りなかつたやうです、又先生も當時は一人で四つの役をやつて居られて相當御多忙のやうでありました、私共先生の授業を受けたのは二年の時一年間だけでありました、非常に整然とした御講義振りでありました、分らない箇所を質問しますと、どこが分らないかと、ギユー〳〵突込んで來られるので恐いもんですから下を向いて分りましたと言つて後で一生懸命に調べると云ふやうにして居りました。（つゞく）

座談會（御寫眞の右側中央が御遺族）

新史料から見た

金澤文庫

（五）金澤文庫の活動に就て（續き）

金澤文庫長　關靖

（二）鎌倉時代の文庫（上）

下向事被止候無心本候、近日併可有御入候、入見參可申承候、恐惶謹言、

八月十一日　貞秀

明忍御房

何れも貞秀から劍阿に宛てた消息である、是等の消息でも分る樣に、一般に鎌倉時代の男子の消息は、文章が頗る簡潔で、而かもそれで用が足りてゐる所が面白い、今日から考へると、大抵の用事は端書位で足りる事になつてゐる。

さて長井家には、尙澤山の書籍が收藏されてゐたと見えて、頓醫抄の奥に長井酒掃文庫といふ文字が見えるといふ事が、最近發行された醫書解題の書に記されてゐる、自分はまたその頓醫抄を見たこともないが、文庫發見の文書中には、この頓醫抄に就て、貞秀と劍阿との間に往復した消息がある。

○

蒙仰候頓醫抄十五帖借進候如法重寶候也又藥種任御注文尋進候抑御契約之諸身注事未注給候歎入候

自此種々（後闕）

○

（前闕）又頓醫抄御借用今可返給候或人一見望候之由申候事に期面拜候

恐々謹言

四月十四日　貞秀

明忍御房

前の消息は貞秀が、劍阿の需に應じて、頓醫抄を他から借りて貸してやり、大層重寶なものだと讃辭を述べ、尙藥が入用なら御注文により、尋ねて進ぜようといふ意味のもので、後のは他に見たいといふ人があるから、返してくれといふ意味のものであらう。

ある醫書の解說に頓醫抄は現在は萬里小路家のみに傳つてゐるもので、梶原性全の著作で、五十卷本と十卷本とあると書いてあるが、この消息に頓醫抄十五帖とあるからには、之は少くとも十五卷以上のものであつたらしい。

尙貞秀對劍阿は、個人的にも大分書籍の貸借を行つてゐた事が、文庫發見の古文書で分る。參考のために一二擧げて見ると、

○

禮記十一賜候訖度々之入御ニ他行候三條歎入候今明必可參候又隙之時者可申候又禮記疏正義他所候到來之時可進候不付御使候條非（後闕）

貞秀から劍阿に宛てたものらしい。劍阿が禮記を返却した次に、禮記疏正義の借用方を申込んだに對して、貞秀がその書籍は今他へ貸出してあるから、返却して來たら御貸ししようと斷つた返事である。或はこの消息は貞秀が、文庫から禮記を借りた時のもので、禮記疏正義は今他所に又貸ししてあるから、返り次第御返しするといふ意味に考へられない事もない、然し全體の文意から、貞秀對劍阿の個人的の關係のものらしくある。

朝野群載本新兩卷賜候訖悅入候又可進候兼亦蒙仰候荏柄社詩謌今事或人今借用候到來之時可進候不付回李候條非本意候

恐々謹言

八月十七日　貞秀

之も貞秀の假名を混へない消息の一である。前の消息と同じ樣に、劍阿から貞秀に、朝野群載を返却して、新に荏柄社詩謌合の借用方を申込んだ事に對して、今他人に貸出してあるから、到來次第御貸しする、殘念ながら今は御使に御渡しする事が出來ないと斷つてゐる意味である。

次に惠翁對貞秀の往復文書も發見された。初めに惠翁から貞秀に對して、圖書の返濟方を督促したもので、貞秀が之に對して、その消息の上に直ぐと返事を認めたもので、一通で文書の往復をしてゐるものである。今度發見された消息の中にはこの種の類が少くない。又先方からの消息の裏面を利用して返事を認めた例も相當ある。一通の文書で同時に往復の消息が分るから讀んで見て非常に興味が深いものである。次に擧げた消息が惠翁對貞秀の往復文書である。

○

不取敢勘申候爲恐候

所蒙仰候「十王次第加異說今注進候

「列追可進候

子宋本开「風土記被尋出候者　附廻李

可

給候

「恐惶謹言

「九月廿二日　秀

惠翁狀

人々御中

初めに消息を出したのが惠翁である、惠翁のことに就て詳しい事は分らないが、この消息が稱名寺に殘されてゐる事や、次の起請文がある處から、稱名寺の住僧である事が分る。

○

所授賜尊法作法等事

一不漏一紙半紙可返御門跡事

一雖奉返正本若有書寫本同可副進事

一假名注同可返上事

一縱爲一事一言不可抄留事

一雖一兩說以御流口決不授門弟事

右五箇條趣任教命之起請如期若雖纖芥違嚴旨之兩部諸尊三國高祖金剛天等渡法善神必加速疾之諸罰可失現當之利益敬白

曆應貳年三月三日

小比丘惠翁（花押）

曆應二年は北條氏滅亡後六年で、劍阿入滅後一年である。

「所蒙仰候」の消息は、惠翁が貞秀に列子宋本と風土記が見付つたら、使に渡してくれといふに對して、貞秀が後から送るといふ返事をしてゐるのである。

文庫には貞秀關係の消息が一番多く發見されてゐるが、之から推して見ても、貞秀個人の文庫も隨分盛んに活動をしてゐた樣である。

大江廣元
- 親廣
  - 高光
  - 佐房
  - 廣時
- 長井氏時廣
  - 泰秀
    - 時秀
    - 宗秀
    - 貞秀

といふ事になつてゐるから、大江廣元の一族で、その子の時廣から長井氏を名乘つてゐる。學者の家柄である。北條九代記德治元年丙午の條に

○

四月廿五日將軍二所御參詣御代官長井兵庫頭貞秀

とあるのと同人であらう。北條大江兩氏の系圖を對照して見ると、兩家は重緣になつてゐるから、自然貞秀と貞顯とは親しい關係であつた事が想像される。又長井家は學者の家柄であつただけに、貞秀の消息には、比較的圖書に關するものが多いし、又文章も全然假名を混ぜない所謂時代流の漢文を用ゐたものもある一寸面白いから一二を引用して見る、

○

夜前閑談直千金、餘味未散心底、忿御歸之間、猶不盡心緒候、參金澤可散遺恨候、尙夜前爲悅無極候、一二難盡筆端、千萬併期面謁、恐々謹言、

正月廿三日　貞秀

明忍御房

○

千御寺被候僧候哉珍事候依炎上事定可及殊御沙汰候歟、又依德政事南方御

歷史と鄕土（上）

鄕土教育と鄕土史の研究

石野英

一、日本教育の眞髓

我が日本の教育は何處までも日本精神を確立把持せる眞の日本人たるべき教育でなければならぬことは殊更に論議するを俟たない。世界人として人類の一員としての素養は從屬の問題である。しかるが故に教育の仕事は何時の時代に於ても成人が未成人に必ず多少は行はれたのであつて、假令石器時代の樣な時代でもいくらかは行はれて居たに違ひない。しかし日本人といふ意識が漸く其の度を增して來た平安時代から漸く組織立てられて、京師の大學であるとか地方の國學や幾つかの私學が起つた。鎌倉、室町の頃は國內戰亂多事で、特に教育事業として普遍的な施設は無かつたのであるが、江戸時代に至つて幕府の昌平黌を初め諸藩の學校や、私塾、寺子屋などの教育機關が設けられたことは周知のことである。處が幕末に至り世界に國を開き、續いて明治時代に入り、外國との接衝が次第に其の密度を加ふるに從ひ、日本及び日本人たる意識は愈々鮮かとなつて、國民教育の必要は次第に上下を擧げて痛感せられ、採長補短歐米の教育制度を參酌して、我が國の教育制度、施設が整へられ、爾來六十餘年、極めて著しい進步の途を辿つたのであつた。かくして其の制度、施設の形式に於ては泰西を模す處あるも、其の實質に於ては飽くまで日本精神を根基とすべきことは勿論である。

二、教育風潮の種々相

教育の大眼目は前記の如く日本精神を堅固に把持せる眞の日本人を作るにあるが、世の中は時の問題である。此の時の推移によつて人々の思想的方面にも、物質的文明の進步にも其の他凡ゆる事柄が變遷、推移することは、吾人の常に留意すべきことである。今試みに明治以來の教育風潮を回顧すれば、最初は法規に示す文字通りに子弟の性格　知識技能並に身體を形式的に陶冶するといふ單純なる見解に局限され、何れかといふと學問過重、知識偏重の弊が伴つて居たのであつた。それが明治の末期より大正の初期に入つて、反省改革の意味に於て勤勞作業主義の教育が唱へられ、次には國民として又市町村の公民の修養に重きを置き、公共の爲に貢獻すべき人物たらしめんとする公民教育が主張せられ、更に教育は教育者の機械的受賣ではいかぬ。教師の全人格を以て被教育者の人格を陶冶せねばならぬといふ人格教育が叫ばれた　さうした教育改革の思潮、主義を列擧すれば十指を屈して尙足らざるものがある。即ち個人的教育、家庭的教育、鄕土的教育、社會的教育、國民的教育、時の推移による教育を重視する時運的教育生活問題、產業的修養、經濟的修養に多くの顧慮を用ふる生活的教育、生產的教育、經濟的教育、及び作業的教育、實用的教育、體驗教育、宗教的教育、人格的教育等これである。吾人はそれ等の教育主義の何れをも排擊するものではないが、其の一、二に過すべきものではない。世界の大勢、國家の要求、社會の傾向、鄕土の事情、家庭の希望、個人の必要等と、そして其の時勢と場所と被教育者等の事情を考慮して、最善の仕方に於て運用すべきものである。

三、鄕土教育の意義

前項に列擧したる十數の教育主義の中、被教育者本位、能力本位個性の發展を重視する個人教育、家庭、鄕土、社會、國家の一員として圓滿なる人物を作らんとする家庭的、鄕土的、社會的、國家的のそれ〴〵の教育主義や、教師の全人格を以て被教育者の人格を陶冶すべき人格的教育、被教育者の體驗を教育の根樞とする體驗教育生活教育、天を畏れ人を愛し物に動ぜざる堅固なる精神を把持せしむる宗教教育の如きは何時、如何なる世の教育にも必要缺くべからざるもので普遍的のものであるが時運的、生產的、經濟的、作業的實用的のそれ〴〵の教育主義は從前の教育方針の反動的改革の意味をも有するもので、それ等は一に教育力を完成する方便としての色彩の濃厚なるものとして、必要であると見る事が出來る。而して本稿に述べんとする鄕土教育は鄕土の一員としての人物を作るといふ他に教育の方便としても適切なるものであつて、一時的流行に終るべき主義　主張ではない。時勢の推移によつて廢棄せらるべきではない。鄕土教育の意義を要約して記述すれば

鄕土教育とは鄕土を教育の對象として教育の實を擧げんとするものである。即ち鄕土に關する認識を確實にし、鄕土を愛し鄕土及び鄕土の文化を保護し、惹いて祖國愛の精神を涵養して人格教育を完成せんとするものである。而して教育の方便上よりは、被教育者の周圍の事物、事象に對する省察をなさしめ、近より遠に、單より複に及ぼして事物を理解せしめんとする教授の原則に適應せしめんとするもので、國民教養上の重要なる教育主義である。

と斯樣に考察するのであつて、冒頭に記述せる祖國愛の精神を確保する眞の日本人を育成し、惹いて人類愛にまで及ぶ教育全般の目的を達せんとする一方面で、偏狹なる鄕土心を固執せしめんとする所以ではないことは深く注意すべきである。而して此の鄕土教育はかゝる文字こそ用ひられなかつたけれども、既に江戸時代から行はれて居たのであるが、輓近特に重視せられ擡頭するに至つたのは（一）外來文化偏重に對する國民自らの反省。（二）被教育者の周圍の事物事象に對する省察。（三）被教育者の生活に即したる教育。（四）近時の世相に鑑み鄕土愛、祖國愛の精神强調。（五）文部省當局の奬勵等によるのである。

四、鄕土教育の諸問題

次に鄕土教育上の諸事項を擧げて概記することゝする。

一、鄕土の範圍　鄕土とは生地、居地又は或る特殊の因緣を有する親しみある地をいひ、自我の體驗の意識に上らざるものは鄕土といふことが出來ないと考へられて居る。故に初等教育にあつては其の被教育者の生地、居地の市町村、中等教育に於ては、行政上の區畫は必ずしも妥當とは言へないが大體府、縣或は之に類する範圍を取扱へばよいと思ふ。

二、鄕土研究の方法　鄕土教育の教材は先づ其資料を蒐集し、之を分類し研究すべきである。分類の方法には（一）初等教育又は普通教育の教科に即したる分類と（二）專門學による分類即ち地形學、地質學、天文學、生物學、社會學、經濟學、人類學、考古學、土俗學、史學、宗教學、言語學、古文書學系譜紋章學等による分類、其の他鄕土の年中行事、風俗、習慣、禮儀作法、口碑、傳說、方言、俚諺民謠、迷信、史蹟、名勝、天然記念物、人物等各般の事物等に至るまで、よく分類整理して教育の資料とすべきである。

三、鄕土教育の教材　鄕土教育の內容に關しては、鄕土教育の意義の存する所に依り、教育者は最も之に適應する樣、教材を取捨し按配すべきである。こゝに於て教育者たるものは、當該市町村より其の府縣に亘る行屆きたる鄕土研究を必緊とするのである。

四、鄕土教育の方面　鄕土教育の方面には（一）鄕土に關する種々の知識を授けて、鄕土的生活の尊重すべき所以を知らしめ信念的に鄕土生活を喜び、鄕土愛の精神を涵養せしむると共に（二）鄕土の一員としての生活實習即ち鎭守の祭祀道路、橋梁、公共建造物の掃除、修繕等の協同作業、人々との交際等の方面がある。

五、鄕土教育の實際　鄕土教育實行の方法に就いては、私は必ずしも鄕土科といふ樣な特殊の學科目を設置し、特別の仕事を課さなくともよい。從來の各教科を教授するに際し、又訓練、養護上に於て時に當り事に觸れて鄕土教育を授け、此の鄕土教育の精神を以て、教育萬般の仕事に實効と活氣あらしむるを得たならば、この教育の目的を達成し得たものと信ずるのである　（つゞく）

思想問題と教育（五）

文學博士　深作安文

次にインターナショナルについて申します。インターナショナルの目的は今日無産主義――プロレタリヤニズムと云ふ新しい言葉で現はされてをります。その大體は昨日申上げました。そこでこの無産主義と云ふものは横暴なる資本家中心の産業組織を覆して、今度は自分等獨力で生産を經營したい即ち産業自治を實現しようと云ふのです。これは私は無産者の横暴だと思ひます。横暴は有産者が行つても悪い、無産者が行つても悪い、他人の横暴に對するに自らの横暴を以てすると云ふことは復仇であります。

次に獨裁と云ふことを申しますが、今までの政治は有産者の爲に有産者が行つて來た、それはほんとうの政治ではない、本當の政治は無産者の爲に無産者が行ふ政治でなければならないと云ふのです私はこれも勝手だと思ひます、何故かと云ふと、凡そ國民と云ふものは有産者と無産者と合せて出來てゐる。社會は上層中層下層から成立つてゐる。だから本來の政治が有産者の爲に有産者のみが行ふと云ふことはある筈はありません一國の政治は有産無産どちらも眼中に於て行はるべきものであります。殊に日本國の如き畏くも御上の御政治は一視同仁であります。寧ろ無産者の方を憐み賜ふ御政治と私は拜察致します。決して日本の政治が有産者のみの爲に有産者のみが行つてゐる政治ではありません、有産無産合せて日本國民でありますから、そこに一視同仁と云ふ御政治が行はれてゐるのですのみならず、どの文化國を見ましても凡そ政治に携る人は皆第一流の人です。第一流の人が無産者の中に一人もゐないとは申しませんが、どうも私は少いと思ふ。總理の器の人があるでせうか、毎日勞働に從事してゐる人が、すぐ臺閣に列して責任ある政治の運轉が出來るでせうか、決して私は無産者を輕蔑するんぢやありませんが、總理大臣の器の人は勞働者よりも有識階級に、財産の有無に拘らず有識階級にあると思ひます、この點でロシヤは今日非常に困つてゐる。國家の政治を全く素人の無産者出身者が運轉します結果、政務の澁滯を來し人民の迷惑です、で誠に勝手氣儘の議論でありましてこれは復仇主義であります、復仇主義の生れるやうな國家は今までの國の政治が悪かつたと見なければなりません。その悪かつた國の無産主義をこの日本國に適用しようと云ふことは大層な間違ひであります。

次は世界赤化政策について申します。この世界赤化政策と云ふものは眞に大きな脅威を今日の文化國に與へてをりまして、この意義は明瞭にしなければなるまいと思ふのであります。世界赤化政策と云ふことは他國の内政を攪亂すると云ふことであります。あはよくば他國の國體を變革させようといふことであります。この點から考へまして國際道德國際法律の蹂躙であります、人道の敵であります それで英國は一九二七年にロシヤと國交を斷絶致しました。一九二七年にロシヤが英國に向つて赤化政策を行ひましたからです。同じ年にフランスはパリ駐在のロシヤ大使を召還させました、大使がフランス赤化の糸を引いたからです又中華民國のことは前に申しました。アメリカは未だ勞農ロシヤを承認しません。かうしたことを考へて見ますると、如何に赤化政策と云ふものが國際道德を無視し國際法律を否定するものであるかといふことは明瞭であります。のみならず他國を赤く染めて共産主義を行はせると云ふ點では、この赤化政策は世界の文化國をみんな貧しくしてしまうと云ふ政策です。前に申しましたやうに共産主義を行へばその國の生産は衰へて貧しくなります、故にこの點から云ふとこの政策は人類共同の敵です。一個人を富ませ一國家を富ませようと云ふのが正しい政策であります次は日本共産黨事件の批評をします。〔中略〕

次に最後の思想問題と教育、その初めの學校教育について申上げてみたいと思ひます。第二次共産黨事件の被告の教育程度をお話に必要な部分だけこゝに御紹介します。

		人員
程度	初等	二五八人
	中等	八一
	高等	一三二
	計	四七一

これは三・一五事件の調べであります。この數字は日本の初等教育者にも又中等教育者にも高等教育者にも餘程の刺戟を與へると思ひます。高等百三十二名といふ數字は、實際どうも鐵拳で強く毆られたやうな氣持を致します。大學まで行きまして共産黨事件に關係するものがあると思へば大學教育の意義といふやうなものが疑はれるやうな心持も致します。そこでどういふ譯でがういふ教字が現はれるかと考へて見ますると云ふと、いろ〳〵のことが考へつきます。

眞の意味の教育と云ふことは私は國民教育であると思つて差支へないと思ひます。そこで教育を受けたものが斯樣になるのはどういふ譯かと考へますといふと、私の案では斯樣であると思ひます、今日の教育の缺陷の一つは智識に偏してゐること――智識偏重主義、第二は劃一主義、第三は高等の教育を受けようとしても入學難で受けることが出來ない事、次は高等教育を受けましても就職難で職を得難い事、又マルクス主義といふものが如何にも思想系統として整うて居りまして、社會理論としても取るべきものがある、社會批判としても敎へられる所がある、社會改造の方法としても善惡は措いて力がありまして、高等學校、大學、或は專門學校、この邊の學徒を魅するものである事、又次には思想團體の潜行的運動と云ふものが實に凄い程でありまして、それに思想信念の未だ定まらざる若人が誘惑されます事、それから師範教育、高等の師範教育、これが古き方式で行はれる爲に、時代に即する教育家を社會に送り出し得ないことがある等の事實を私は考へてをります。それでこれを如何に改善すべきかと云ふことも考へなければならぬと思ふのであります、その實行案改善案の一つとして私は修身科、公民科、國史科、國語科、漢文科、特にこの五つについて吾々教育者は考へなければなるまいと思ふのであります。例へば修身について一言しますれば今日の修身は往々にして只修身教科書の文字の解釋と云ふものに終りはしないか。教へる人も教へられる人も只文字の解釋に終つてはしないか。教師は果して學徒の血となり肉となるまでに國民道德を教へてゐるかどうか、さういふことを考へなければなるまいと思ひます。公民科について申しますれば、公民生活をする資格を十分に殊に學生に備へさせる、今日の收賄罪を犯すものゝ中には隨分智識の程度の高い人を見ます。收賄行爲の道德的法律的に許し得ないといふことはとうに承知の人が何萬何千萬といふ不正の金を收受するやうであります。ですから公の生活に堪ふる智識、德操を備へるといふことは餘程これは今後必要なことであると思ひます。次は國史でございますが、今日の國史教育としましては日本建國の大精神、日本固有の國情、かういふ點に付て十分でないところがありはしないかと思ひます。特にこの點では西洋歷史の方が時間が多くて、案外に日本歷史の時間が少いと云ふやうなことも私はこゝで考ふべきことゝ思ひます。ですから高等學校、大學邊りになると西洋史の智識の方を多分に持つてゐる。そこへ魅力のあるマルクス主義に接するのですからどうもそれに惹きつけられるのでないかと思ひます。そこで日本建國の精神或は日本精神、或は日本固有の國情、外國と日本と異なる點其他を十二分に徹底させなければなるまいと考へます。國語につきましては只言語學的に扱ふだけでは足りません。文法的に扱ふだけでも足りません、その裏に潜んでゐる日本思想、日本の特殊性、かういふものを摘み出して敎へるのでなければなるまいと思ひます。次には漢文、これも上級の學徒には支那で出來た古典も必要でありますが、さうでない限りは、日本の漢文、日本の學者によつて書かれた日本精神、日本思想、日本の國情を叙した漢文これを敎へると云ふことが必要だと思ひます。今日支那へ行つて見ますると時文と稱する一寸讀み難い文章が生命を持つてをりまして漢文は殆ど生命がありません。今日漢文は日本のみにあるのであります。日本の學者の書いたのは日本の漢文でありますからそれを敎材にするのが必要だと思ひます。

次に最後の社會教育について一言しますとどうして社會の側から考へて共産黨が現れたかと申しますと云ふと、無論色々と皆樣も考へておいでとは思ひますが、先づ私は生活難、これが一つの理由と思ひます。それから生活不安、詰り物資はあつても何となく毎日の生活が不安であるといふ點であります。第三には失業です。第四には社會施設の備はらぬこと、例へば救濟事業、感化事業、授産事業と云ふやうな必要な社會施設の不備。次に左翼思想團體の潜行運動今日では男子でも女子でも團體の下に職務を執つてをりますところには大抵赤い分子が居るらしいのです。是等の諸箇條によつて社會的に思想問題で惱まされるのであります。そこでこれについて教育の側から考ふべきことは、私は成るべく個人と社會との關係、社會生活の意味を社會の人達に敎へまして、社會人と云ふものを一人でも多くすることが社會教育の眼目と思ひます。然らば個人と社會との關係は何か、これは最早皆樣が敎壇の上からお扱ひになつてゐることゝ存じます。吾々は父から出て、吾々の跡は子や孫が繼ぐのですからどうしても縱の關係があるは物質的に精神的になつた。山嵐は紋つきの羽織をズタ〳〵にして鼻血を出した「坊つちやん」は頬べたに傷を負ふた。

此の祝勝會といふのは明治二十七八年の日清戰爭に出征した松山歩兵第二十二聯隊の凱旋祝賀會が松山堀の内の練兵場で擧行されたので松山中學校の生徒も參列することゝなり、漱石先生も職員として行かれた。祝賀會が無事に濟んでその歸り路、師範學校の生徒と衝突し、日まさに暮れんとする市街に於て大亂鬪を演じたのであつた。師範生と中學生は常に犬猿も啻ならざる間柄で、中學生は師範生のことを地方稅（地方稅の大部分は敎育費に使用される、師範生は地方稅の御蔭で學校で勉强し卒業後も地方稅に依つて生計を立てて行く故かく云ひしなりと呼んでぶべつしてゐた。）

この時實際は大亂鬪が數ヶ所に演ぜられ事態容易ならずと見て、多數警官が驅け付け、まさに拔劍せんとしたくらゐであつた。師範生の方は豫定の戰略だつたこゝと年齢が上で當時の師範生の一年はたいてい徵兵檢査前後の者が多かつたので、中學一年生の制帽百餘個を分捕り學校へ引き上げてからその制帽を木柵へ梟首にした。これを知つた中學生は更に深夜師範學校へ押し寄せ帽子を奪還して歸りながら「地方稅は地方稅立寄宿舍に住み込んでゐるだけあつて。帽子まで地方稅のやうに考へてほしがつてゐる。そんなにほしければ明日堂々と松山中學校へほしいからと歎願に來ればもつと新しいのを買つてやるわい……」と聲を揃へてさけびながら引き上げた。それから永い間兩校の間に確執が續けられた。この騷動に松山中學の某敎師が鐵棒を振り廻して見得を切つたといふ話もあり職員の中で田の中へ投げ込まれたものもあつた。但し漱石先生には何の怪我もなかつた。

「坊つちやん」は山嵐と踊を見てゐると、俄かにわあつと鬨の聲がして、喧嘩だ〳〵と人が騷ぎ出した。驅けつけて見ると中學生が今朝の意趣晴らしに師範生と喧嘩してゐるのである。「坊つちやん」と山嵐は喧嘩を分けやうとして中へはいつたが敵味方入り亂れて組んづ解れつしてゐることゝて、分けるどころか、二人はすぐ喧嘩の禍中に卷き込まれて「坊つちやん」と山嵐も石を打つつけられたり、頬を毆られたりしてゐるところへ巡査が驅けつけた。山嵐は紋つきの羽織をズタ〳〵にして鼻血を出した「坊つちやん」は頬べたに傷を負ふた。

此の祝勝會といふのは明治二十七八年の日清戰爭に出征した松山歩兵第二十二聯隊の凱旋祝賀會が松山堀の内の練兵場で擧行されたので松山中學校の生徒も參列することゝなり、漱石先生も職員として行かれた。祝賀會が無事に濟んでその歸り路、師範學校の生徒と衝突し、日まさに暮れんとする市街に於て大亂鬪を演じたのであつた。師範生と中學生は常に犬猿も啻ならざる間柄で、中學生は師範生のことを地方稅（地方稅の大部分は敎育費に使用される、師範生は地方稅の御蔭で學校で勉强し卒業後も地方稅に依つて生計を立てて行く故かく云ひしなりと呼んでぶべつしてゐた。）

この時實際は大亂鬪が數ヶ所に演ぜられ事態容易ならずと見て、多數警官が驅け付け、まさに拔劍せんとしたくらゐであつた。師範生の方は豫定の戰略だつたこゝと年齢が上で當時の師範生の一年はたいてい徵兵檢査前後の者が多かつたので、中學一年生の制帽百餘個を分捕り學校へ引き上げてからその制帽を木柵へ梟首にした。これを知つた中學生は更に深夜師範學校へ押し寄せ帽子を奪還して歸りながら「地方稅は地方稅立寄宿舍に住み込んでゐるだけあつて。帽子まで地方稅のやうに考へてほしがつてゐる。そんなにほしければ明日堂々と松山中學校へほしいからと歎願に來ればもつと新しいのを買つてやるわい……」と聲を揃へてさけびながら引き上げた。それから永い間兩校の間に確執が續けられた。この騷動に松山中學の某敎師が鐵棒を振り廻して見得を切つたといふ話もあり職員の中で田の中へ投げ込まれたものもあつた。但し漱石先生には何の怪我もなかつた。

「坊つちやん」の後日物語り

昔床しい珍談（六）

（靜岡教育誌から）

粹に碎けた送別會

うらなり先生の送別會は花晨亭といふこゝ第一等の料理屋で開かれた。五十疊の間で二間の床がついてゐる。右の方に赤い瀨戸物の花瓶に松が生けてある。「あの瀨戸物はどこで出來るのです」と聞いたら「あれは瀨戸物ぢやありません、伊萬里ですよ」といつた。伊萬里だつて瀨戸物ぢやないかといつたら、みんな笑つた。それから床の眞中に大きな懸物がかゝつてゐて、それに下手な字が二十八書いてある。あまり下手な字だと思つたから、漢學の先生に「あんな不味いものを何故かけて置くのですか」ときいたら、あれは海屋といつて有名な書家の字だといつた。

圖書教師の石川先生が大分縣の某中學校へ轉任することになつてその送別が本文にある通り松山市第一流の花の舍で開かれた。五十疊の立派な座敷で床の間に赤い模樣の瓶があつた。博物の先生が伊萬里物だと說明した。花瓶の向ふの壁には海屋の大幅が掛つてゐた。いよ〳〵會が開かれると校長も敎頭も形の如く、石川敎師の轉任を惜しんだが挨拶が濟むと宴會が始まる。酒がまはると隱し藝が出る歷史の中村先生は四高出身だつたが、美男子で唄もなか〳〵上手であつた。中村先生はおとくいの紀伊の國を唄つた。漢學の左氏さんは義太夫の眞似をした。英語敎師の梅木さんは平素おとなしい人であつたが酒を呑むとよく踊り出した。現にその後校長となつた横地氏の宅で玩具のサーベルを振り廻して「日淸談判破裂して…」と踊られたことがあつた。

松中と師範の大合戰

祝勝會で學校は休みなのだが、練兵場で式があるといふので、中學校は職員も生徒も全部出かけて行つた。「坊つちやん」も生徒の間にはさまつて監督して行つた。ところが町の四つ辻で同じく祝賀會に參列する師範學校の生徒と衝突してしまつた。前列の方で中學生がしきりに「地方稅の癖に引つ込め」とどなつてゐる。うしろからは「押せ〳〵と大きな聲を出す。體操の敎師が「靜かに〳〵」と聲を嗄らしてゐる。大騷ぎになりさうに見えたが、やがて折合がついて師範學校の生徒が先に行くことになつて無事に濟んだ。

その祝賀會が終へてから「坊つちやん」は下宿へ歸つて山嵐と牛鍋をつゝいてから祝賀會の餘興を見に出かけた。大變な人出で花火が上つたり、舞臺で踊があつたりして非常な賑ひであるこゝに本當の意味の結論を一寸申して終ります。吾々日本國民は思想の上では經驗に乏しいのであります。これは只今初めてのことでありませんで、緒言に申しましたやうに、佛敎傳來の時その他の例に見てもわかるやうに我が國民は思想上の經驗には乏しいのであります。その例を外國にとりますと日本はローマに近い。ローマ國民が何故思想上の經驗が少かつたかと云ひますと、御承知のやうにローマは當時の大小の國家を併合してローマ帝國と云ふものを建設致しました、その尨大なローマ國をどうして統治すべきか、それが代々の君主、代々の政治家の頭腦を働かせた問題でありました。ですから、法律の上ではローマ法と云ふ立派な法律を殘しましたが、哲學とか宗教とかいふ方面ではギリシヤに劣つてをります。日本はそれに近い。日本は昔から政治には君民共に注意しまして、日本國民は國と云ふ事柄には本當に眞劍になつて活動しました。そこに北條時宗が出て東鄕平八郎が出たのです。そこで物質的危機を救つたのです。精神的危機を救ふにも第二の時宗第二の平八郎が今日出なければならないのです、出てかのマルクスと一騎打をしなければいけないのです。ところが出るかも知れませんがそれは時間がかゝります。そこでどうしても直接には團體の力を以て思想問題の解決に當るといふことが一つの方法と思ひます。第二は廻り遠くとも敎育の力です。假令廻り遠くとも敎育の力で以て精神界思想界の時宗を敎養する、平八郎を敎養すると云ふのでなければなるまいと思ひます。そこで御同樣敎育者の責任と云ふものは、この思想問題に關係つけまして特に重且大を加へ來つたのであります。どうして吾々敎育者は思想的に非常なる困難に面してゐる今日に處すべきか、此の點で吾々は自己の再吟味と云ふものを餘程嚴正にしなければなるまいと思ひます。簡單に申上げましたことが諸君の御再吟味に少しでも役に立つことが出來れば私の非常な幸とするところでございます。（完）

中等學校生徒保護會主催
第二回座談會
（於縣廳三階會議室）

出席者

東京少年審判所審判官　前田偉男
東京少年審判所同　石黒信彦
警察部警務課　秋澤武
川崎警察署　荒鐵次郎
伊勢佐木警察署　遠藤幸治
同　田邊宅平
鶴見警察署　江刺家信太郎
神奈川警察署　石井彦作
戸部警察署　神宮武
關東學院中學部　内海悟
女子師範學校　會田慶司
本牧中學校　熊澤福德
高木女學校　高木雋
商工學習學校　増田精家
横濱第一中學校　渡邊直見
横濱第二中學校　田村六郎
横濱第三中學校　田中一萬
工業學校　菊川清藏
横濱市立實科高等女學校　前川慶造
横濱女子商業學校　山本壽司
横濱高等女學校　田沼要人
戸部高等實踐女學校　安室市太郎
鶴見高等女學校　三澤智雄
光華女學校　廣戸武夫
フエリス和英女學校　兒玉猪久馬
明倫高等女學校　石川ふさ
富士見丘高等女學校　浦井喜久造
日本大學第四中學校　宮澤久次

會長（學務部長）山縣三郎　簡單に御挨拶申上げます。今日は御忙しい所をお差繰御出席を戴き厚くお禮を申上げます。

中等學校生徒保護會が出來まして、未だ日猶淺いのでありまして會としましても是れからだん〳〵と仕事を進めるべく努力を致して居る次第でありますが、本會の目的達成の爲めにはどうしても皆樣方の御協力、御援助に據らなければならないのでありますから今後もどうぞ宜しく密接な聯繫をお保ち下さいまして、御後援下さるやうお願ひ致します。

前回は二月二十七日に縣廳でやはり皆樣方にお集りを戴きまして、いろ〳〵と御體驗談を承り本會としても、學校側としても、是等生徒の校外生活の保護善導に就て非常に參考となり、今後留意しなければならぬ事項も相當あつたやうであります。

本會は本縣に於きましては御承知の如く新しい試みでありますので未だ十分に其の機能を發揮して居りませぬが、本會の機能發揮のためには、どうしても、市内各警察署の係りの方々縣の刑事課の方々に御協力御援助を願はなければ保護會の職員が幾ら活動しましても、その目的を達成することは困難なのであります。幸ひに一般社會に於きましても、この種の會の出來ましたことを漸次御諒解を得まして、是非一つ出來るだけの活動をするやうにと云ふ御奬勵の言葉を頂戴して居るやうな次第でありますから、どうぞ今日も前回のお集りの際の如く腹藏なき御意見なり御體驗談なり御懇談を願ひまして本會の目的達成のために御協力下さるやう、切にお願ひを致す次第であります。

主事（黄金井助治）　保護會の事業概要に就きましては、機會ある毎に關係各方面に御理解願ふやう努めて居りますが、何分創立未だ日淺く充分なる活動と成果を收めるまでに至つて居りませぬが、家庭と學校との中間にあつて父兄及保護者や教師の目のとゞかない所を看護善導し教育的處置を講ずることの心要なることは言を俟たないことゝ存じますこの意味に於きまして保護會は父兄、保護者、教師に代つて不良化して行くものを矯正し誤れるものを善導し根本的に救ふことを勤めとして居るものであります。

今回は第二回の座談會でありまして、斯う云ふ會合を通じまして、お互に生徒の行狀を實際に知り適切なる教育處置を講ぜられ、保護會の眞の目的遂行の爲めに一層の援助を願ひ、又茲に特に御多忙中をお差繰り願ひ御出席を願ひました、東京少年審判所の、前田、石黒兩審判官に學生、生徒に關聯した不良行爲の種々相及社會相に就いて、御體驗なり御意見なりを伺ふ機會を得ましたことを御同樣嬉びと致して居ります、ではこれから石黒審判官にお話をお願ひ致します。

（石黒審判官）

東京少年審判所の石黒でございます。只今お話がありましたが、實は前もつて用意しなかつたものでございますから統一的の話は出來ませぬが自分の感じましたことに就きましてお話申上げやうと思つて居ります。私共の管轄區域は東京府下神奈川縣下、でありまして、この區域内の不良少年少女を扱つて居るのであります。

昨年は約四千名程扱つて居ります、これは各家庭から來たものばかりでなく、檢事局の方から廻つたものも相當ございます、この中には相當惡性のものもありますが、只今お話の中心になつて居る中等學校の生徒のことに就きましては、今纏つた材料を持つて居りませぬので、極く斷片的のことに就てお話申上げたいと思つて居ります。御承知の如く少年法は十八歳未滿の者に適用されるのでありますから從つて中等學校の生徒が相當居るのであります。昨年扱ひました四千名の中で、在學中の少年少女が約三百名位あつたかと記憶して居りますこの中小學校の生徒は少く、中等學校の男女生徒が可成り多數に上つて居ります、この中相當不良のものであつて、中途退學をした者達をいろ〳〵と私共が調べた結果に就て簡單にお話申上げて見たいと思ふのであります。先づ加害者の方の側からお話し致しますと第一が、**タカリ**でございます、これが非常に多く單に東京の學生のみに限らず横濱の學生にも多いやうであります而してこれは、加害者と被害者との關係が裏表になつて居て、非常に密接な關係にあるのであります。私共がよくこの加害者の不良の徒を調べる時に、何故お前は、**タカリ**をするやうになつたかと、その動機、經路等に付て調べて見ますに、多くは曾つて、自分が、**タカラレ**たが故に、恨みをもつたと云ふことゝ、も一つは、そんな簡單なことで小使錢が自分の手に入ることが出來るならば、と云ふ二つの原因を兼ねてさう云ふ氣持が起きて來るのではなからうかと私共考へて居ります。それから被害者の方でも多くの場合後難を恐れて學校や、父兄警察等に訴へ出ない、そこが彼等の乘ずる所であり又被害を受けた方でも、立場を代へて今度は自分でやつて見たくなる心持を起させるのではないかと思つて居ります。次は學生、生徒のかつぱらい、窃盗であります。これが一昨年から昨年にかけて、非常に多くなつて來て居ります、書籍店、文房具店の、かつぱらいデパートでのかつぱらい、でありますが、これは最近、東京の方の不良生徒仲間で、各種學校を通じて、流行して居ると云ふと變ですが、兎に角多くなつて來て居ります、やがては、横濱方面にも斯うした事が流行して來るのではないかと懸念して居るのです。是等不良生徒の仲間には、**テクニカルターム**、が出來て居りまして、俗に萬引のことを**モサ**と言つて居ります。

これは、**スリ**仲間の隱語をそのまゝ轉用したものでこれを又尖端的な言葉に轉用して溫めるとか、**ウオーム**するとか言つて居ります。斯う云ふ窃盗行爲をした生徒を調べて見ますに、たゞ小使に困つて居るばかりでなく、學校で他の生徒に、みせびらかして、俺れは、お前よりは、いゝものを盗つて來た、俺れはお前が、**モサ**つた店よりも、もつと窃むに條件の困難な所で、而も斯う云ふものを、持つて來たと云ふやうな、謂ばそのことに一種の**プライド**を持つと云ふやうな傾向があるのではないかと思ひます。斯うした行爲は非常に傳播力が激しいものでありまして、一校の或る級に四、五人の斯うした生徒が居つたために、全校各級に及んだと云ふやうな實例があります。その原因を調べて見ますに、中には個人的に影響を受けたのもありますが修學旅行が非常に大きな影響を與へて居るやうに考へられます。同じ學校で勉强して居りますと、いろ〳〵と個人的の影響も受けることでありませうが、この修學旅行を致しますと、二晩、三晩も一緒に泊つて旅行しますと、學校以外の特別な密接なお互の氣持の交換が出來る關係上その間いろ〳〵と惡い行爲が傳播され易いのであります。東京の某中等校でありましたが、箱根細工を賣つて居る店に十人も二十人も一度に押しかけて、混雜に紛れて、かつぱらいをやつたと云ふ例もあります。其後東京に歸つて來てからその學校にさう云ふかつぱらいが非常に流行しまして、何十名と云ふ窃盗生徒を出した實例がありますが、これは刑法上から言へば窃盗には違ひありませぬが、盗んだ生徒の方では、泥棒をしたと云ふ氣持はなく一種の子供らしい無邪氣な氣持、惡戯の程度でやるのですが、これが、大きな問題になる源になるのであります、實に危險であると思ひます。この種の犯罪が特に最近東京に於ては激增して居ります。私共この學生、生徒の犯罪を區分けして調べたことがありましたが、普通犯罪は東京では淺草區が一番多く、從つて象潟署、日本堤署が一番多いであらうと言はれて居たのですが、中等學生の犯罪件數は少年審判所で調べたのでは、神田警察署の管内が一番多いのであります、それは神田には書籍店、文房具屋が多く、從つてこれに關した萬引、かつぱらいが多いことを如實に語つて居ると思ふのであります。それから是等不良學生が喫茶店から受ける影響も非常に大きなものがあります。カフエーの方は學生や、生徒では、餘り金を持つて居りませぬからさう度々出入出來ないことゝ思はれますが、喫茶店の方は、十錢のコーヒー一杯で、一時間も二時間も頑張つて居て、女給に戯れるとか、其他いろ〳〵と女給達の話を聞くとかして影響を受けるのであります、この喫茶店から受ける影響は非常に大きな力をもつて居ることゝ私共考へるのであります。

又映畫、活動寫眞の影響も相當に力あるものと思ひます

次にダンスホールであります、ダンスホールの影響は彼等を不良の群に引き入れるべきいろ〳〵誘惑の要素をもつものと思はれます。喫茶店、ダンスホールそのものから受ける影響も重大でありますが箱そこに行きたいと云ふ慾望のために他の不良行爲を併發せしめると云ふ關係も特に考慮すべき一つの注意點ではあるまいかと思ひます、さう云ふ所に度々行けば小使に困る、自分の周圍で都合が出來なければ、**タカリ**をやる、學校を休む、と云ふやうな經路を辿ることになります。

以上は不良行爲をする加害者側の方の話ですが、一方被害者の方としてもやはりそこに、不良に**タカラレ**る因を爲す何物かゞあるのであります。普通不良の徒は、誰れにでも**タカル**かと言ふと、さうではなく、彼等仲間の**テクニカルターム**で言へば**ネス**人、普通一般の眞面目な生活をして居る人又は眞面目な生徒に**カタル**ことは、卑劫とされて居るのであります。一面に於て**タカラ**れる方で弱味があると云ふことを物語つて居るのであります。例へば生徒であつて、普通の日、授業のあるのに學校を休んで**サボ**つて居る、又は喫茶店に入つて居るとか、特に目立つやうな流行を追ふた特殊の服裝をして居るとか又は態度、言動が普通でないとか、いろ〳〵と、不良に**タカラレル**弱味を被害者自身が持つて居るのであります。斯うした被害者でありますから今度は立場を代へて加害者となると云ふやうな譯です。ですから、加害者と、被害者とは裏と表であつて而も相通じた、何物かゞあるとも謂へるのであります。

以上は男學生の場合でありますが、女學生の方にも相當被害があります、私の方で四五年前でありましたが、東京府下の中等學校にお願ひしまして被害の調査をしたことがありました、昨年もやりましたが、未だ纏つて居りませぬので發表は差控へますがこれに據つて見ましても被害の中で一番多いのは**タカリ**であります、女の方は、猥褻的の行爲、附文をされるとか、手を握られるとか云ふやうなことが多いのであります。そしてこの方の加害者は相當年輩の紳士風態のものが多いやうであります、街頭に於ける與太者、不良の徒の行動に就てお話したいのですが、時間がありませぬので極く簡單に二三氣の付いた點に就てお話して見ませう、この與太者にはいろ〳〵と派がありまして全般に亘ると時間がありませぬので、こゝでは、學生の與太者若しくは學生らしい氣持を多分に持つて居る不良の徒に就いてお話します。先づ服裝でありますが、この服裝にもいろ〳〵と變遷がありまして一時流行した、ラツパズボンは今では非常に少くなつたやうであります。最近は、服の袖口を縱に四、五寸裂きこれに**スナツプ**をつけ、學校に居る時は、**チヤン**として居りますが、街を歩く時とか喫茶店に入つた時とか、**ヨタ**る場合には、そのスナツプボタンを外して、**ワイシヤツ**の袖口を見せて得意になつて歩いて居ると云ふのがあります、これは**メキシコ**當りのカウボーイの服裝を眞似たのではあるまいかと思はれます。それから油汚れのした帽子、その冠り方いろ〳〵と特殊の工夫を凝らして居るやうであります。

それから街を歩いて居る場合。電車の中、喫茶店等で、眼と眼を見合ふ、さうした場合、相手方の眼の動きに依つて、喧嘩の因を作ることがあります、斯う云ふ不良の徒と視線の合つた時、おとなしく外らせてしまへば、何んでもないのですが、特に異樣の風態をして居る場合等、視線を外らさないで、じつと視詰めて居ると、侮辱されたとか、挑戰されたとか云ふ意味に解して喧嘩を吹きかける、この視線の睨合が屢々大きな喧嘩の因を爲して居ります、又男の方の不良が女性を見當付けて視線を向ける、**ウインク**すると言つて居りますが、女の方でさう云ふ**ウインク**に對して應ずるやうな眼付をすればいろ〳〵と辭を設けて接近して行くと云ふのが彼等の常套手段であります。又一面に於て最近は女學生方面で是等與太者的な、**タカリ**をしたり、喧嘩をする、亂暴的な男氣と言ひますが、まあ男性的魅力をこの與太者の行爲の中から見出して一種の魅惑を感じるさう云ふ氣持が相當に動いて居るやうに見受けます。

現に私共の知つて居る男の與太者は常に四、五人の女と關係して居るのですが、この男が他に、數人の女のあることを承知の上で、この男の後を追ふて家を飛び出して父兄を困らせて居ると云ふ實例もあります、この種のものは相當年輩の女學校の上級生徒に多く餘り下級の生徒にはないやうです。それから男の方では東京には七年制の中學校がありますが、これは一緒に居る高等部の生徒が比較的自由な生活をして居るのでその影響を受ける關係上訓育方面に相當よくない點が多いのではないかと思ひます。尤も七年制の學校が全部惡いと云ふのではありませぬが、さう云ふやうな傾があると云ふことを考へさせられるのであります。中等學校の生徒の校外に於ける不良行爲、これが保護善導に就て御參考となるべき話題に付きましては、まだ其他にもいろ〳〵とありますが

（つゞく）

婦人家庭欄

女教師十二景

第六景

創立記念日慈善市（一）

M生

卒業生のR子が自作の玩具の猫（ビロード製で、首には鈴をつけた白や赤のリボンを結び、ビーズの眼を可愛らしく見開いてゐる）の箱入りを、山の如く、自動車に同乘させて、乘りつけて來たのを、特別寄附の殿として、C高女の、創立記念慈善市の下準備は、六月十二日の午後四時と云ふに、一先づ打ち切ることゝなつた。

十三日は、一日飾りつけ……職員一同と、卒業生の有志と、上級の五年四組の生徒とが、それ〴〵部署について、懸命に働いてゐる。

T子は、自己考案のねり香「源氏」と、にほひ袋「紬ケ香」との賣場をあづかるかたはら、卒業生有志あつかひの、菓子「ドウナツツ」賣り方の支配人ともなつてゐるので、今日はなか〳〵忙しい。

「T先生、これを何處へ立てませう…？」

標本室から出して來た几帳「それは、源氏を象徴するに持つて來いのものだつた）を廊下に据ゑて、かう聞いたのは、五年A組のL子と、其の他數人である。

「どうも有難う……少し待つて〻頂戴よ」

同じくA組のI子と、大講堂の前で、脚立をつかつて、壁上高く、ねり香の看板（と云つても、模造紙のポスターに過ぎないが）を貼つてゐるT子が心からうれしさなこゑを出した。

「いゝポスターね」

几帳の連中が、下から望み見る看板にも、T子自筆の源氏の「桐壺」から「夢の浮橋」に至る卷々の名が列記され、其の下には、同じく卷々の香の圖が描かれてゐる。

「お香包みの方がモット素適よだつてね、先生お筆の、源語の卷々の和歌が、一々書いておありなんですもの……」

これは、看板揚揚がゝりの助手が俯瞰しながらの言葉だつた。

「もう拜見なすつたの……？」と、下からL子が、とても羨ましさう。

「えゝ勿論よ」

これはI子。

「あら、勿論だなんて憎らしいッ」

「これは暮僚の特權よ」

「これは、下にゐるものゝ特權よ」

L子がI子に應戰しながら走り寄つて、脚立を少しガタ〳〵云はせる。

「あゝ御免々々、特權おあづけ、先生を御落しさせたら、それこそ大變……」

仰山に叫びつゝ、I子が、上で、しきりにお辭儀をする。

「ホ、、、、誰にでも有りさうな特權だらけですね、お香包みは今直きに、見て頂きますよ」

看板の揭げ方が終ると、T子は、I子と共に廊下に降り立つ。

「私達は、やつぱり買へないのかしら」

呟くのはU子。

「上級生のくせに、何の事です…職員及び生徒は、慈善市の買物を遠慮すること」

とN子がすましかへる。

「つまんないわね」

それでも、數人は、机を、そこへ並べたり、白布を掛けたり、T子の指圖で、几帳を、後方へ立てたり、當直室から、賣品の入つた亂れ箱を持つて來たりして、賣場をつくるに車輪になつてゐる。

「どうしても、袿袴の麗人が、ここに立たなくつてわね」

L子が、藻に大海ずつの几帳の傍に行つて、F子を見ながら微笑した。

「Y子さんがいゝヨ」

「あらいやなF子さん、あなたこそ」

二人は、ほんのりと、頰を赤くして、眞劍に讓り合つてゐる。

「何ていゝ香でせう……T先生中を拜見しても宜しいのね」

「どうぞ見て頂戴」

N子が、亂れ箱の上の、紫縮緬をパツと除いた。中には、これも模造紙の香包み（上には、須磨、明石、澪標、葵、若紫など、源語の卷々の名を芦手風に書き、香の圖を散らしてある）が、凡そ四五百入れられてあつた。

「その御歌と云ふのは――？」

「中に、小さな短冊を入れて置きました」

「どれ」

「拜見」

「私も……」

「まあ、いゝこと」

數人は、二三の香包みを、徐ろに開き、小短冊の、源氏の和歌を、小音で玩讀してゐる。

「欲しいヨ」

「どうかして、買ふことは出來ないものでせうか」

と、互に措くこと能はざるの慨…

「よかつたら、後で書きますよ――ところで、お作法室の方は如何かしら」

「あつちの賣場を、T先生の御趣味通りにするんだと、A子さん達の五人が、先刻から、お二階に行つていらつしやいますのよ」

「あらさう、私、又A子さん達が、珍しくおさぼりかと思ひましたのよ」

「如何して〳〵、徹底的なのV子と、F子も、今日は、相當にはしやぐのだつた。

「なら、一つ行つて拜見しませう、一旦、この亂れ箱は、もとの所へ藏つて來て頂戴よ」

さうして、T子は、又此の數人と脚立を持つて、階上作法室の横へ臨んだ。

馥郁たる芳香！

帽額の御簾と云ひ、卓の上の水色の絹と云ひ、同じく水色の薄絹をかけた衣桁と云ひ、まことに、にほひ袋「紬ケ香」の賣り場にはふさはしいこしらへ。

さつきまつ花橘の香をかげば むかしの人の袖の香ぞする

の聯まで添へてある。

「まあゝ――」

N子が、呆れたやうに感心する。

「これは大變いゝこと……さうして、A子さん達は、何處へ行つていらつしやるのでせうね」

T子は、數人をかへりみずにはゐなかつた。

「功績をのこして、其の人あらずなんて、ものゝ本にありさうね……ゆかしき限りだわ」

一同で、心ゆくばかり、和み微笑んだ。

「私は、これで、お割烹の方の御手傳に行きますから、A子さん達が出ていらしやつたら、にほひ袋を、當直室へ――と御はなしゝて置いて頂戴――ほんとうにいゝことね――」

「ハイ〳〵」（つゞく）

○前回の正誤

第一段	十六行目	誤	正
第二段	三十七行目	祈り添へ	折り添へ
第四段	四行目	勅誼	勅諚
	四年B組	ハ	四年C組 ハ

知識交換

或る座談會

女權問題について

K記者

C女史「エレン・ケイが、已に五六歳にして、意識的に「生の悦び」を知るの力を有してゐたことは、彼女自身が記すところの「まだズツと幼い時に、ヤツと歩けるばかりの一つ年下の妹の手を引いて、近くの小山へ登つたことがあつた。其の時握つた妹の手の微妙な感觸と折から、其の木の實程の小さな二つの握り合つた手に映しこんで來る太陽の光の感觸とに依つて、明かに「生の悦び」を意識したことを覺えてゐる」と云ふので分明してゐますが、彼女が此の生命禮讃、人生肯定の信念は、どこから來たかと云へば、無論、幸福な其の家庭からと申すべきであらうと思ひます。それは、彼女程の天分でしたら、如何なる環境にあり、いかなる障碍に圍まれてゐませうとも、勿論、其の本領を發揮するに違ひありますまいが彼女の人格と、其の事業との基礎に大磐石の重きをなしてゐるものは、かへす〳〵も其の家庭、殊に母親の感化だつたと云はなければならないと思ひます。

Y先生「ケイ女史の、幼時のすべてが伺ひたいものですこと」

C女史「彼女だつて、幼時はやつぱり、まゝごともし、馬にも乘り、泳ぎもし、船にも乘り、スケートもして子供らしい遊びに耽つてゐましたが、最も彼女の好んだものは讀書とお噺とであり、此の二つが、大凡そ彼女の幼、少時の生活の大部分を形造つてゐました。彼女の讀書力の進歩は非常に著しく、六七歳にして、已に、自國の作家は云ふまでもなく、其の家の圖書館に豐富に收容してある獨逸や英吉利の作家のものまでも讀み耽り、その作品の主人公や、女主人公の、清く氣高い愛の生活に、スツカリチャームされてゐました。彼女はよき意味に於ける早熟の子供で、七歳の時に、已に愛の生活に目覺めてゐるのでした。

「エレン・ケイ、その生涯及びその事業」の著者ハミルトンに依れば、

「彼女は七歳の時、未來の愛の生活を、明瞭にその頭に描いてゐた。無論、それは、彼女が讀み耽つた物語の主人公の如くであらねばならない。先づ、彼女の家は、田舍の地領内に建てられてゐる、地下室から、屋根裏の部屋に至るまで、清楚、簡朴に整つてゐるであらう。そして、小作人達も、すべて、小ザツパリした家と庭とを持つてゐる――彼女自身は、驚異に價する程美しくて聰明な二人の男の子と、二人の女の子との母親で、其の四人の子供を、全然愛ばかりで育てる。寢室の壁には、自分の手で地領内の、色々な景色を描いたクリーム色の壁紙を貼り朝夕の散歩には、雪の如き白い服をつけて白馬に跨り樹の蔭や、草花の間を往來するであらう――地領内には、必ず理想的の學校を設け、工場をも建てゝ人々の爲めに盡さう。役人は、みんないゝ人ばかりで、いつも小作人のことを思ひ、軍人は、悉くやさしい人で、亂暴なぞは少しもしないと云ふことにする」

かくの如きが、エレンが七歳の時ハツキリと持つた、將來の愛の世界でした。何と云ふシツカリした幼兒の理想でせう、――いかなる作品を讀んでも、如何なる物語を聞いても、必ずそのものに讀まるゝことなく、必ず獨自の解釋を下して、自分の生活にそれを結びつけねば置かぬ理解力と、個人性の強さとを幼時から持つてゐたエレン・ケイは、無論、その兩親の誇りであり、愛の的であると同時に恐怖であり、崇拜の的でもあつたと思ひます。この愛の持主であるケイは、無論子供の時から、多勢の弟妹達の世話をよくし、殆ど小さき母親の觀があつたのです。ですから、弟姉達も、エレンを非常に敬愛し、糖果などを分配する時は、口を揃へて「エレンに分けさせて頂戴、さうすれば、一番正しいんですから」と、いつも、母親に云ふ程でした。彼女は、嘗て利己的の行爲をしたことが無い。弟妹は云ふまでもなく、友人に對しても、子供の時から深き愛情を以つて交つたのです「二人がまだ極く小さい子供の時、或る日、森の中で、野苺の一叢が、美はしい實をつけてゐるのを見つけました。二人は、心から喜んで、それを摘んでは食べ、食べては摘んで樂しみましたが、エレンは、大きないゝ實を見つける毎にいつも、私にそれをくれるのです。あまり不思議なので、「何故、いゝのは、みな私に下さるの？」と聞きますと「もし、あなたが、これを先に見つけたら、きつと私に下さつたでせう」と云ふではありませんか、幼心にも、私はエレンの愛を感ぜずにはゐられませんでした」と、彼女の親友が、彼女を傳してゐるのを見ても、いかに彼女が、幼時から、人を包み覆ふやうな、豐かな、大きな愛の持主であつたかゞ分りませう」

F女史「しかし、エレンは、非常なはにかみやさんだつたと聞きましたが」

C女史「さうです、彼女は、寧ろ極端に内氣なはにかみやでありました。例のハミルトンは「彼女は、著作家として、又、講演者としてその信ずるところを述べ、寸毫の假借もなさゞる大膽至極の主張者であるにも係はらず、その美しき含羞の特性は、名聲籍甚たる今も決して、彼女から消え去つてはゐなかつた」と云つてゐますが、まことに其の通りで、女權擴張の爲め、人類愛の爲めに直往邁進する女丈夫エレン・ケイは、幼時から、會合や、社交的生活にあまり立ち入らず、暇あれば、靜に、草花の間や並木の下を歩きながら、考へることが好きだつたのです。そして、又彼女は、彼女の兩親から贈られた自分の部屋（そこには祖父からの贈物なる机、人から頂いた搖り椅子、其の他、彼女の好きな數々の壁掛けや、額や、棚やがある）から、滿々たるマレン湖の水を、又は島を、牧場を、欅を、白楊を眺めて喜んでゐました――何者にも侵さるゝことなき彼女の王國たる此の一室、此の一室こそ、彼女が十三歳から三十歳に至るまで、常に起居し、修養したところでありました。後に、人生の問題上、類無き深き洞察を爲し、限り無き光明をもたらすの人格が、この小さな部屋から生れ出たかと思ひますと、私は全く、彼の一室を拜みたい位に思ひます「私は、自然に依つて教育された」と、彼女自身は云つてゐますが、その自然は、すべて此のズンヅホルムの小さな王國に於いて、彼女の教師ともなり、保姆ともなつたのであります。因に申して置きますが、彼女は、所謂學校教育といふものを受けて居りません」

C子「エレンが、一時、非常に憂鬱だつたといふのは事實なのでせうか」

A女史「多くの聰明なる少女の經驗する、彼の成熟期に近づいて、名も無き悲しみに囚はれ、憂鬱な日を送ること――これはエレンに於いても事實でした、丁度十二歳から始まつたことですが、人生肯定、生命禮讃の彼女も、一時は、人の世が唯醜く、不正にのみ見えて此世からは、光明が遠く逃れ去り、唯、不安と不調和が見苦しく殘るやうに思つたと傳へられて居ります。しかし、少女期に、此の恐怖すべき暗澹たる深淵の絶壁にまで來た彼女にして、始めて、人生上の問題、宗教上の問題が、立派に解決がつくやうになつたのではないでせうか」

時事偶感（承前）

瀧澤曲南

その五

文部對京大の問題は學術上教育上洵に遺憾至極であり、殊にそれが教育行政の最高官廳と學問教育の最高學府間の繫爭であるだけに世間の視聽を刺戟し、一大センセーションを起して居るのも無理がない。所が問題の中心である刑法讀本の內容が不明なので、的確な是非の議論をする事の出來ぬのは殘念だ。已に發表された批評や感想が多いが、要するに的はづれの想像や揣摩臆測の多いのは已むを得ない。自分も中心問題の是非を避け、專ら教育上殊に初等中等の教育上の立場から聊か所感を述べて見やう。

從來大學教授の間には非常識家が多く、單に知識慾を滿足するために、學問の獨立とか研究の自由とかの美名にかくれ、國家國民の利害は忘れた樣に勝手な熱を吹いた學者が相當あつた事は爭はれぬ事實である。それにも拘はらず學務當局は寬容の態度で不問に附し來つたので、兎角はがゆき思ひをさせたり、時には無能の聲さへ耳にした事もあつた。其時代と比較すると今回の文部の態度は頗る强硬で且つ堂々たるものがある。それも其筈、平時は兎も角思想國難と云ふ非常時である、大學教授なども卒先して時の政府と協力し學生生徒は勿論國民の迷はぬ樣に極力善導すべきが當然ではあるまいか、其內容の是非は兎に角發賣禁止になる樣な劍呑なもの、併かも單に研究發表の形式でもなく、國民普及の目的に適する讀本型の出版法を採つた如きは少くとも不謹愼であり不穩當である。況んや研究の自由といふても、日本では絕對の自由でない事は云ふまでもない。

我等が熱望する大學教授のタイプは、東大で云ふなら穗積現法學部長、京大で云へば小西現總長又は此三月停年で退官した靑柳工學博士の如きである。之れはホンの一例に過ぎぬ、言替へれば學識も深遠であり研究も深刻であり、同時に常識圓滿で單に大學の研究室や教場にのみ蟄居せず進んでは大學以下各種の學校のため出來るだけの援助を吝まず、又各方面社會教育の指導及國民の善導に熱心な學者を歡迎する。

日露戰役直前に開戰論で有名な七博士があつた、其論旨も立派であり其態度も堂々たるもので、殊に責任問題の生じた場合には重要なる教職を捨つる弊屣の如く、多數の力などは賴まずにサツサと下野したものであつた。然るに今回は法學部教授全部が總辭職をしやうとし、關係のない學生までが全退學をなさんとし尙ほ飽き足らず他の學部や他の大學の支持を求めつゝある。これでは全然勞働爭議の型て、何處に大學教授としての威嚴と大學生としての價値があるか。自から侮るの甚だしきもので所謂時代錯誤を免かれぬ、今少し碎けた今少し氣のきいた進み方がありさうに思ふ。

肝腎の御本人は已に休職となつて居る、此上の處置としては法學部長一人で全責任を背負つて一切を解決し、彼の大江戸を救つた大西鄕の心境を玆に實現するといふ劇的な場面は期待されぬものか、徒らに衆力を恃み、所謂ストライキ式で進むならば强いて教授全部を犧牲とし、更らに多數の學生を誤まらせるものでは將領としては深く此點を考へねばならぬ、又法學部廢滅の結果を將來する事にもならう、日本全體から見れば法學部の二つや三つは廢滅するとも、そは寧ろ時代の要求に添ふとも云へやうが、それは又別個に考慮するがよからう、殊に京大では今日まで多數の不良學生や若干の不良教授を出して世間を騷がして居る、大學の使命に戻り國家の期待を裏切つた此罪過に對する賠償を抑もどうする積りである。國民指導國家奉仕といふ重大な立場から深思熟考、全國諸學校に好模範を垂れ、國民の均しく感激する樣な穩健な好解決が望ましい。松岡全權が世界を相手に獅子吼したとは場面が違ふ、事は國內問題ではないか、事已に玆に至る要は共倒れにならぬ樣、適當な轉身法があり相なものだ來たりつゝあるではないか、その上抗日の本山、中華民國に東洋モンロー主義の擡頭しつゝある噂すらある。

就中、國難の癌であつた赤化思想に一轉機が來て共產黨もどうやら解消するではなからうか、斯うして日本の空からだん〳〵と妖雲怪霧が夢消し去り、政治的にも、經濟的にも、思想的にも、晴々しい氣分が漂ひ流れ、やがては大和島根の淸々しい眞實相が、東海の表にくつきりと盪々たる旭暉に照り榮ゆる曙の八聲の轟。

朗らかな天資、天空海濶な山縣會長を戴いては教育者も大きく朗らかな氣分になつて大いに縣教育のため渾身の熱意を奮ひ起たして欲しいものだ。

時は今なり、區々たる塵巷の問題に齷齪してあつたら誠心誠意のやり處に窮することのないやうにありたきものである。

本縣教育會理事總會

後任副會長の推薦　實施事業の協議

六月七日午前十時縣廳に於て開催、全縣下各郡市教育團體の縣教育會理事貳拾壹名出席、協議に入るに當り副會長の後任として新教務課長里見富次氏を滿場の拍手裡に推薦し、尋いて同氏新任の御挨拶ありてのち、大要左記の協議を終始した、

一、講習會は適當の時期に縣の北部と南部との二個所にて開催することに

一、講演會は本年八月上旬、高座郡茅崎小學校講堂に於いて松岡洋右氏を聘して時局問題に關する講演を拜聽すること

一、研究費は從來有益にして特殊な研究團體に補助せしを尙個人のにも擴張して一層研究奬勵の途を拓くこと

一、夏季學習帖に就いては、送本冊數に過剩を生じた場合、從前の如くそれの引取方を教育會に於いてせられたき希望意見多數あつたが本會としては初度の事業なれば熟議の上態度を決することに參同を求めた

教育會館建設の提議と

教育會事務所としての　友松會館の可否

縣教育會事務所位置問題に就いては、多年の懸案であつて、九鬼、田島、外山の各會長を經ても、何等解決の手懸さへ得ずに、現在に至つたのであるが、

山縣會長は縣教育會及他團體即今の實情に觀て、聰に考ふる處ありてか、突如として教育會館建設の意圖なきかと滿場に提唱されたのであつた會長の意圖を漫に揣摩臆測するを憚るものではあるが、大勢を洞察せられての聰明さを懷しく思ふてゐる。

非常時とは申せ、今や日支停戰協定はなりて、日滿親善は此に一飛躍をした、國際聯盟離脫の苦味を嘗めたのもひと時、英京での世界經濟會議は對日感情の凡てを好轉して**があるまい者でもない、謂ば大事業だから基礎だけでも一年や二年で出來得る者でない併し、結局は縣下教育者諸君の總意に熱があるか、ないかの問題に歸結するのだ…**」と

山縣會長はともかく多年幹部の惱えてきた教育會事務所問題について、大きくか、小さくか、近かく解決して下さる者と推察する、吾等は山縣會長の意圖を漫に揣摩臆測するを憚るものではあるが、大勢を洞察せられての聰明さを懷しく思ふてゐる。

非常時とは申せ、今や日支停戰協定はなりて、日滿親善は此に一飛躍をした、國際聯盟離脫の苦味を嘗めたのもひと時、英京での世界經濟會議は對日感情の凡てを好轉して**に就いて大いに調査を進めてゆよ、敷地として適當な個所**

經濟的、自治的訓練を體系とする學校經營の實際

正修小學校の小動村

一、小動村經營ノ動機

一、教育ノ目的ノ一ハ、子弟ヲシテ、國家（鄕土）ノ有爲ナ公民トシテ、又人間實際社會ノ有用ナ一員トシテ、其ノ時代ノ文化的使命ヲ喜ンデ遂行スル健全、有能ナ人間トナラシムルニアル。

二、教育ハ、年少子弟ヲ社會化スル作用トモ考ヘラレ、一切ノ教授訓練ハ人間ヲシテ、社會ニ順應シ、且ツ社會ノ向上ニ參與サセル爲デアル。

三、學校ハ、活動ト作爲トヲ實演スル共同生活、共同訓練ノ工場デアリ、抽象的知識ニ代ツテ、實地ノ作爲ニヨル具體的知識ヲ修得セシムベキデアル。

四、教育ハ、社會生活ニ於テノミ行ハレ、又社會生活ハ、教育ニヨツテノミ形成向上スル。

五、空想的社會觀ヨリ脫シテ、實際社會ニ根據ヲ求メルト同時ニ、ソノ社會カラ希ハシイ性質ヲ拔出シ、希ハシクナイ性質ヲ捨去ツテ、社會改善ノ提案トスル。

二、小動村ノ範圍及ビ名稱ノ理

尋六女ノ兒童、教室、土地等ヲ以テ、其ノ範圍トスル。腰越町ノ鎭守小動神社、太平洋ノ怒濤ヲ粉碎スル小動ノ巖——社會ノ荒波ニ屈セヌ意氣志（腰越魂）ノ表象——之レ我ガ村即チ（小動）ノ名ノアル所以デアル。

三、小動村經營ノ目的

一、自治ノ精神ヲ養成シ、兼ネテ經濟觀念ヲ强メル。

二、將來ハ、鄕土人ヲシテ、健全ナル自治團體ヲツクラシメル基礎トスル。

四、鄕土教育ト自治

鄕土教育ハ、鄕土ヲ正シテ理解シ、愛シ、發展セシムルヲ目的トスル。鄕土ノ發展ハ一面的デナク立體的デアラネバナラヌ。即チ健全ナル自治團體ニナツテコソ、眞ニ鄕土ハ發展スルノデアルト信ズ。

五、組織

一、政治
1. 村長（金子　ミナ）
2. 助役（飯塚やなぎ）
3. 收入役（中島　シズ）
4. 書記（矢澤　キミ）
5. 村會議員（池田のぶ　金子文子　岩田ツヤ子　有泉キミ子　中島シズ）

二、教育
1. 學務委員（甘粕百合子　中丸　キン）
2. 修養委員（飯塚やなぎ　甘粕百合子）

三、衞生
1. 委員（松岡　琴子　片野　珠子）

四、風紀

五、產業
「信用、販賣、購買組合」
1. 組合長（金子　ミナ）
2. 會計係（中島　シズ）
3. 役員（茂木葉子　早川キヌ子　島村ヤエ子　後藤梅子）
4. 農場係（飛田フサ　新倉ミツ）
5. 信用組合貯金部員　金子　ミナ　茂木　葉子　早川キヌ子　飯塚やなぎ　飛田　ヨシ　後藤　梅子　中島　シズ　吉田　モン　岩田ツヤ子　甘粕百合子　金子　文子　有泉キミ子　中丸　キン　松岡　琴子　和田　トメ　池田　のぶ　片野　珠子　島村ヤエ子　飛田ヨシ

六、實際

一、政治
1. 村會ニ於テ、村ノ行政、豫算等ヲ定メ、村長ヲ中心トシテ、村政ノ運行ヲハカル。
2. 村ノ運用資金ハ、主トシテ村稅（一期（一ケ月）每ニ金貳錢）ノ總額ノ半ヲモツテシ、他ノ半ハ、基本財產ニ編入スル。但シ基本財產トハ卒業記念物ノ資ナリ。
3. 村民ハ、村會デ議決サレタ村期ヲ守リ、村ノ平和ヲハカル。
4. 村會ハ、一ケ月一回開會スル。但シ臨時總會ヲ開クコトアリ
5. 村長ハ、村會ニ於テ、村會議員ハ村民ノ公平ナル選擧ニヨル

二、教育
1. 學務委員ハ、學校（小動小學校）ノ教育方法、施設等ニ常ニ留意シ、兒童ノ學習、自習方法、態度ノ向上發展ヲハカル。
2. 修養委員ハ、村民ノ精神修養ニ心掛ケ、修養ニ役立ツ偉人、先輩ノ言行等ヲ揭示シ、又新聞、雜誌等ニヨツテ、教育上參考トナルモノヲ報告或ハ揭示スル。
3. 一ケ月數回「小動便リ」ヲ發行スル。但シ紙代一ケ月壹錢。

三、衞生
1. 委員ハ、村民ノ衞生、家屋（机）、村道（廊下）、村ノ淸潔、整頓ニ留意スル。
2. 委員ハ、衞生、淸潔、整頓等ニ關スル**ポスター**或ハ標語ヲ揭示スル。每週一回村ヲ巡廻シテ、衞生等ノ檢査ヲスル。（爪、鼻汁、頭髮、虱、手拭、手足、衣服、家屋等）。

四、風紀
1. 委員ハ、村則ノ實行ヲ奬勵シ、村民ノ和合ヲハカル。又服裝言語、動作等ニ留意スル。
2. 或時ハ、嚴重ニ自分ノ任務、權限ヲツクスコトガ出來ル。

五、產業
1. 本村ノ主要產業ハ農業デアル。
2. 農業
イ、農業者　四十名
ロ、農場　A　面積　フキ畑（一〇、九二平方米約三、三坪）　メウガ畑（一四、八五平方米約四、八坪）　野菜畑（五四八、一九平方米約一六六、一坪）
B　農場ハ之ヲ八區ニ分ケ、各區ハ五戶ニテ共同經營ヲスル。一區平均約六八、五二平方米デアル。
ハ、農產物ノ種類　だいこん、にんじん、はうれんさう、こまつな、さんとうな、こかぶ、ねぎ、じやがいも、とまと、たうもろこし、ふき、そらまめ、めうが、さやゑんどう、はやとうり、いんぎんまめ、うり、かぼちや等。

3. 公益團體
1. 「信用、販賣、購買組合」
2. 種子ハ、小動村購買組合デ購入シ、之ヲ各區ニ分配スル。種子費ハ、村稅ノ中ヨリ支出スル。
3. 各區ノ農產物ハ、小動村販賣組合ニテ販賣シ、賣上高ハ、小動村信用組合ニ預金シ、村ノ基本財產ニ編入ス。
4. 小動村信用組合貯金部ハ、組合員ノ外、組合外ノ者ノ一般貯金ヲモ取扱フ。
5. 貯金部現在ノ預金額ハ、金壹百五拾參圓參拾錢デアル。
但シ（自昭和七年九月上旬　至昭和八年五月廿五日）預金者（二〇三名）、預金ハ、金壹錢ヨリ受付ク。

俳句漫談（三）

豊岡校　岩田紅一

夢に追ふ恩師の影や明易き　紅一

さらでだに夏の夜は明易きものを急ち逝き給ひし恩師河邊先生の俤、今は早や夢にのみ追ふ日とはなつた。本縣の教育に一生を捧げられた先生の英靈と御遺族を慰めまつる企に集まる清き心の多からんことを切に念じ奉る。

明易き水樓の灯の消えにけり　句瑠璃

魚の荷に交る青草や明易き　惣之助

やがて曉の空冷えてしら〳〵と夏の夜は明けた。

花密柑霧にふかるゝ夏曉かな　とみ女

この女性の總明な詩眼には徹服させられる、いつまでも朝顔の千代女にはゞをきかされて居ないで、女ならではの句を作られて昭和の千代女が多數出らるゝことを祈る。

夏は親しまれる水の邊、池に、川に、海に

朝の畔睡蓮の黄に立ちつくす　紅一

睡蓮やつひに暮れたる水の色　美男

水馬草伏すまゝの水蒿かな　うさぎ

初夏の犬の沿び來し汐哉　如帆

滿潮に鱚釣れさかる一しきり　笛朗

潮風や舟傾けて蟹を釣る　紅一

松落葉疊に降りぬ鮎の宿　煤六

六月一日の鮎解禁の川の幸は如何に心ときめくことか、その鮎の味もよかろうがさぞや句の味もよからう。

遠雷や折々おどる魚籠の魚　白塊

工場の晝の灯やはたゝ神　氏人

太公望の釣糸にかすかに響いた遠雷も機械のうなる工場地帶に轟く大雷鳴沛然と到る白雨。

夕立や竹ことごとく葉を鳴らす　鶯塘

窓遠く森ゆれて居る白雨かな　鳴々子

たちまち霽れて庭上に日射しあり。

日當りて水づく庭や夕立晴　虚子

冲の帆に日當り初めぬ二重虹　旭山

夏帽に白靴の颯爽たる若者の姿を見よ。

青々と故郷の山河や夏帽子　樂南

夏帽の紐噛み止める嵐かな　鳴雪

白靴に鎌倉は松の埃かな　古香

白靴や一人乘りたるエレベーター　青人

白靴に洋上の人となりにけり　京父

籐椅子を左舷に移す港哉　圭石

こんな港情調の豊かな句には海近き神奈川縣に住む者には殊に共鳴されよう。

簪をかさと落しぬ繭の中　野葡萄

ひとへもの徑の麥に刺されけり　亞浪

田舍の話は繭の値から、麥の出來から、生々として來る。

やがて蚊が出て螢が飛ぶ。

蚊柱や暗くなりゆく箒草　芙陽

果物の匂ひ漂ふ蚊の一つ　銀魚

螢光りけり太かりし松の幹　仙臥

田の風や螢入り來し土間の闇　高城

夏の味覺はなんといふても飲料水から。

つぎ終へしサイダ程なく靜もれる　銀靄

埒もなき話も旅やソーダ水　竹童

見晴臺にからりと置くラムネ瓶　嶺華

吹き飛ばすビールの泡や夏の月　紅一

冷奴青紫蘇畫を香りけり　縣人

目、耳、鼻、舌、五官に觸るもの皆句となる。六月は深川祭の太鼓の音から始まつて各地のお祭月である。

神輿待つ屏風の前の一家族　向陽城

金屏にうつりて通る祭主哉　金鼎

山車過ぎし靜けさにあり献燈句　紅一

かくて神祭る國の榮は永しへに正義日本は世界をリードする意義に敢然として立つのである。

六月の空晴れて楠の葉風哉　飛雨

武相俳壇募集

七月分募集句

一、課題　七夕（通題　五句吐行々子）

一、選者　岩田紅一先生

一、〆切　七月十五日

一、發表　七月二十五日發行本紙上

一、賞　三光　選者揮毫短冊

一、用紙　官製はがき縦書

一、宛所　横濱市豊岡小學校　岩田紅一

『松坂の一夜』に就いて

平塚高等小學校訓導　河東追牛

去歳、佐佐木信綱先生の華甲にあたり、その記念會に寸志をさしあげたところ、先生より鄭重なる御手紙と華甲記念文集、扶桑珠寶解說、萬葉藏、石藥師文庫繪葉書及同文庫陳列目錄等を御贈り下さつた。

「華甲記念文集」の序文をみると

「物に觸れ、事に感じて書き記せる文稿、歳月のつもるがままに其の數つもれるを、こたび華甲自壽の記念にもと、抄き出でて一卷となしつ。云云」

とあるので、その文集の内容の如何なるものであるかが判ると思ふ。

私はその頃、やはり先生の還暦記念論文集「日本文學論纂」（菊判約九百頁）を讀んでゐたので、そのまま書棚に置いてしまつたのであるが、この頃になつて讀み出したのである。すると「松坂の一夜」の一文に出會つた。讀んでいくと、あの尋六の國語讀本にのつてゐる「松坂の一夜」の文章が判切りと腦裡に浮び出てくるではないか。まぎれもなく讀本に出てゐる原文であるので、ひとりでに微笑まれてくるのであつた。私はすつかり嬉しく、喜びの二重奏を得たのである。

私は六年を度々受持つたことがあるので、あの文章を幾度となく繰返して、いゝ文であると、ひそかに思つてゐたが佐佐木信綱大人の文を採つたのであることは、今までちつとも知らずに居つたのである。數ある教授參考書にも、この原文は載せてないやうに記憶する。或は私の狹い讀書のため見ずに過してゐたのかも知れない。恐らく私と同樣にこれが原據なることを知つて居られぬ方も多いのではないかと獨合點をしたので、次に佐々木先生の文を轉載させていたゞくことにする。

松坂の一夜

時は夏の半「いやとこせ」と長閑やかに唄ひつかれゆくお伊勢參りの群も、春さきほどには騷がしからぬ伊勢松坂なる日野町の西側、古木を商ふ老舗柏屋兵助の店さきに、「御免」といつて腰をかけたのは、魚町の小兒科醫で年の若い本居舜庵であつた。舜庵は醫師を業とはして居るものの名を宣長といふて皇國學の書やら漢籍やらを常に買ふこの店の顧客であるから、主人は笑ましげに出迎へたが、手をうつて「あゝ残念なことをしなされた、あなたがよく名前を言つてお出になる江戸の岡部先生が、若いお弟子と供をつれて先ほどお立よりになつたに」と言ふ。舜庵は、いつもゆつくりした調子とはちがつて「岡部先生がどうしてここへ」とあわただしく問ふ。主人は「何でも田安樣の御用で、山城から大和とお廻りになつて、歸りに參宮をなさらうといふので、一昨日あの新上屋へお着きになつたところ少しお足に浮腫が出たとやらで御逗留、今朝はまうおよろしいので御出立なさる途中、何か古い本はないかと暫らくお休みになつて、參宮にお出かけになりました。」舜庵「それは残念なことである、どうかしてお目にかゝりたいが。」「跡を追つてお出でなさいませ、追付けるかもしれませぬ」と主人が言ふので、舜庵は一行の樣子を大急ぎで聞きとつて、その跡を追つた。湊町、平生町、愛宕町を通り過ぎ、松坂の町を離れて次の宿なる垣鼻村まで行つたが、どうしてもそれらしい人に追ひつき得なかつたので、すごすごと我が家に戻つて來た。

數日の後、岡部衞士は神宮の參拜を濟ませ、二見が浦から鳥羽の日和見山に遊んで、夕暮に再び松坂の新上屋に宿つた。「もし歸りにまた泊られたならば、どうかすぐ知らせて貰ひたい」と賴んでおいた舜庵は、夜に入つて新上屋からの使を得た。樹敬寺の塔頭なる嶺松院の歌會について、今しも歸つて來た彼は、取るものも取あへず旅宿を訪うた。衞士が同行の弟子村田春郷は廿五、その弟の春海は十八の若盛で、早くも別室にくつろいでゐた。衞士は、ほの暗い行燈の下に舜庵を引見した。

賀茂縣主眞淵通稱衞士は、當年六十七歳、その大著なる冠辭考、萬葉考なども既に成り、將軍有德公の第二子田安の中納言宗武の國學の師としてその名嘖々たる一世の老大家である。年老いたれど頰豊かなるこの老學者に相對せる本居舜庵は、眉宇の間にほとばしつてをる才氣を、溫和な性格に包んでゐる三十四歳の壯年、しかも彼は廿三歳にして京都に遊學し、醫術を學び、廿八歳にして松坂に歸り、醫を業としてはゐるものの、京都で學んだのは唯に醫術のみではなくして、契沖阿闍梨の著書を讀破し、國學の蘊蓄も深く、排蘆小船等の著述もあつたのである。

舜庵は長い間欽慕して居た身の、ゆくりなき對面を喜んで、かねて志して居る古事記の註釋に就いてその計畫を語つた。老學者は若人の言葉を靜かに聞いて、懇ろにその意見を語つた。自分ももとより神典を解き明らめたいとは思つてゐたが、それにはまづ漢意を淸くはなれて、古へのまことの意を尋ね得ねばならぬ。古への意を得るには、古への言を得た上でなければならぬ古への言を得るには萬葉をよく明らめねばならぬ。それゆゑ自分は專ら萬葉を明らめて居た間に、既にかく年老いて、殘りの齡いくばくも無く、神典を說くまでにいたることを得ない。御身は年も若くゆくさきが長いから、忘らず勤めさへすれば、必ず成し遂げ得られるであらう。しかし世の學問に志す者は、とかく低いところを經ないで、すぐに高い處へ登らうとする弊がある。それで低いところをさへ得ることが出來ぬのである。此むねを忘れずに心にしめて、まづ低いところをよく固めておいて、さて高いところに登るがよい」と諭した。

夏の夜はまだきに更けやすく、家々の門のみな閉ざされ果てた深夜に、老學者の言に感激して面ほてりした若人はさらでも今朝から曇り日の、闇夜の道のいづこを踏むともおぼえず、中町の通りを西に折れ、魚町の東側なる我が家のくぐり戸を入つた。隣家なる桶利の主人は律義者で、いつも遲くまで夜なべをして居る。今夜もとんとんと桶の箍をはめて居る。時にはかしましいと思ふ折もあるが、今夜の彼の耳には、何の音も響かなかつた。

舜庵はその後江戸に便を求め、翌十四年の正月、村田傳藏の仲介で名簿をささげ、うけひごとをしるして、縣居の門人錄に名を列ぬる一人となつた。爾來松坂と江戸との間飛脚の往來に、彼は問ひ此は答へた。門人とはいへ、その相會うたことは纔かに一度、たゞ一夜のものがたりに過ぎなかつたのである。

今を去る百五十餘年前、寶曆十三年五月二十五日の夜、伊勢國飯高郡松坂日野町なる新上屋の行燈の光は、その光の下に語つた老學者と若人とを照らした。しかも其のほの暗い燈火は、我が國文學史の上に、不滅の光を放つて居るのである。

附言　余幼くて松坂に在りし頃、柏屋の老主人より聞ける談話に、本居翁の日記玉かつまの數節等をあざなひて、この小篇をものしつ縣居翁より鈴屋翁に贈られし書狀によれば、當夜宣長と同行せし者（尾張屋太右衞門）ありしものの如くなれど、ここには省きつ。

（大正五年九月）

昭和八年度版

神奈川縣教育關係職員錄

定價金五拾錢（送料共）

○本年は六月中に製本完成の筈です

御入用の方は、賣切れぬうちに

至急御申込下さい

毎年、品切れとなりますから、後れては折角のお需めに應じかねます。

○代金拂込みは職員錄附錄振替口座用紙を御利用下さい

横濱市中區日本大通神奈川縣廳内

神奈川縣教育會